

第3次

山口県農山漁村女性に関する 中長期ビジョン

ともに築こう！
やまぐち型農山漁村女性のライフビジョン



平成28年3月

山口県



山口県知事 村岡 嗣政

第3次山口県農山漁村女性に関する中長期ビジョンの策定にあたって

本県の農林水産業・農山漁村は、食料をはじめ農林水産物を県民に安定供給するという基本的役割に加え、県土や自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等の多面的機能を持っており、多様な農林水産資源に恵まれた本県において、担い手の過半数を占める農山漁村女性への期待はますます高まっています。

このような中、本県では、平成18年7月に農林水産業・農山漁村で働き暮らす女性の行動指針となる「第2次山口県農山漁村女性に関する中長期ビジョン」を策定し、平成27年度を目標に、農山漁村女性連携会議の皆様をはじめ関係団体、行政機関等とともに、農山漁村女性の地位向上や女性の社会参画に積極的に取り組んできました。

この結果、農林水産関係審議会や農業委員などの各種方針決定の場への女性登用率が向上し、女性起業グループや法人経営における女性理事の増加など、一定の成果を見たところです。

その一方で、担い手の減少や高齢化の進行により、農山漁村女性をとりまく環境が大きく変化し、農山漁村女性企業・集落営農法人等の中核経営体における能力発揮や、生産と生活の調和のとれた働きやすい環境づくりなど、直面する課題が残っています。

私は、人口減少や少子高齢化の中にあっても、これらの課題に果敢に挑戦し、活力ある地域の中で、県民誰もがはつらつと暮らしていくことができるよう、将来にわたって元気な山口県を創っていかねばならないと考えています。

このため、元気な農林水産業を育成し、地域を活性化する、活力の源ともいえる女性が積極的に多様な活動へ自信と誇りを持って参画することが今以上に重要と考え、女性が輝く地域社会の実現に向け、農山漁村をとりまく社会的、経済的变化やこれまで推進してきた第2次ビジョンの成果等を踏まえ、今後の10年間を展望した「第3次山口県農山漁村女性に関する中長期ビジョン」を策定しました。

今後はこのビジョンに沿って、農山漁村女性に関する各種施策・事業を重点的かつ総合的に進め、農山漁村女性の皆様はもとより、県民の皆様や市町、関係機関・関係団体と一体となって、「活力みなぎる山口県」の実現を目指し、新たな県づくりを力強く進めてまいりますので、皆様の一層の御理解と御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年3月



山口県農山漁村女性連携会議 会長 本村 ひろみ

第3次山口県農山漁村女性に関する中長期ビジョンの策定を受けて

平成7年度に「山口県農山漁村女性に関する中長期ビジョン」が策定されて以来、私たち農山漁村女性は、仲間や関係機関・団体と連携し、一丸となってビジョン実現に向け邁進してまいりました。

その流れは、「第2次山口県農山漁村女性に関する中長期ビジョン」に受け継がれ、私たち農山漁村女性連携会議は、それぞれの組織・団体での実践活動を積み重ねつつ、皆で手をつなぎ、女性農業委員の登用要請や女性のつどい等の啓発活動を継続してまいりました。

この結果、地域や組織の方針決定の場への女性登用が進み、女性が前向きに、そして積極的に発言、実行する機会が増えてきました。

また、女性の社会的・経済的自立をもたらす農山漁村女性起業活動が活発になり、地域の経済循環の核となる経営体としての発展も期待されるようになってきました。

「実践できることからコツコツと地道に、そして粘り強く」取り組んできた成果だと自負しております。

その一方で、女性の経営参画や生産と暮らしの両立、そして、担い手不足や高齢化に伴い、今まで育んできた魅力ある農林水産業とむらの暮らしを次世代に継承することが大きな課題となっています。

このような状況の中で、新たに平成37年度を目標とする「第3次山口県農山漁村女性に関する中長期ビジョン」が策定されました。今後10年間を見据えて、私たちのめざそうとする姿、方向を関係者と共有し、ともに手を携えて新たな目標に向かって活動に取り組めることは、大変心強いものです。

私たち山口県農山漁村女性連携会議は、これまで以上に女性団体相互の連携を深め、結束をして実践活動に取り組む、第3次ビジョンの実現に努めてまいりたいと思います。

今後とも、あらゆる場面で男女に力をあわせて、よりよい農林水産業・農山漁村の実現をめざして努力してまいりましょう。

平成28年3月

目次

	頁
第1 第3次中長期ビジョンの基本的な考え方 ……………	1
1 第3次ビジョン策定の趣旨	
2 第3次ビジョン策定の背景	
3 性格と役割	
4 計画の期間	
第2 農山漁村女性をとりまく現状 ……………	3
1 女性の本県農林水産業の重要な担い手	
2 農林水産業を担う女性の働く環境	
3 女性をとりまく暮らしと地域生活	
4 女性の方針決定の場への参画と環境整備	
第3 農山漁村女性のめざそうとする姿 ……………	7
「私はわが家や地域の実践者！」	
～支え合いで築くステキな暮らしを継承しよう～	
1 私が創るむらの暮らしは自立と共助で実現を	
2 私が選ぶ農林水産業は自信と誇りを持って	
第4 めざそうとする方向とアクションシナリオ ……………	8
1 意識を「行動」や「かたち」にして、更なる能力発揮を進めよう	
2 女性も経営に参画し、魅力ある農林水産業をつくっていこう	
3 むらとまちが支え合い持続可能なむらの暮らしをつくっていこう	
4 女性の活動を支える体制づくりを進めていこう	
第5 農山漁村男女のパートナーシップ指標 ……………	9
〔参考資料編〕 ……………	11

第1 第3次中長期ビジョンの基本的な考え方

1 第3次ビジョン策定の趣旨

本県では、平成7年8月に山口県農山漁村女性連携会議の提言を受け、農林水産業・農山漁村で働き暮らす女性がめざそうとする姿を示す「山口県農山漁村女性に関する中長期ビジョン」を策定し、10年が経過した平成18年7月には「第2次山口県農山漁村女性に関する中長期ビジョン」を策定し、平成27年度を目標に、農山漁村女性の地位向上や女性の社会参画に積極的に取り組んできました。

この中長期ビジョンの実現をめざすため、農山漁村女性連携会議をはじめ関係農林水産業団体、行政機関等とともに、農山漁村女性の意識改革や方針決定の場への参画促進、各種実践活動及び各種諸施策等に取り組んできたところであり、その結果、能力発揮し、いきいきと活躍する女性が増えるなど一定の成果を見たところです。

人口減少や少子高齢化の中にあっても「活力みなぎる山口県」をめざす本県において、農林水産業が今後とも持続的・安定的な発展を図りながら、農林水産業を元気にし、地域を活性化するためには、活力の源といえる女性が、積極的に多様な活動へ自信と誇りを持って参画することが今以上に重要となっています。

こうしたことから、農山漁村をとりまく社会的、経済的变化やこれまで推進してきた「第2次山口県農山漁村女性に関する中長期ビジョン」の成果及び農山漁村女性連携会議とともに実施した農山漁村女性の意向調査結果等を踏まえ、新たな「第3次山口県農山漁村女性に関する中長期ビジョン」を策定することとしました。

2 第3次ビジョン策定の背景

(1) 国の動き

「男女共同参画社会基本法」(平成11年6月)が制定され、男女が互いにその人権を尊重し、責任も分かち合い、その個性と能力を十分に発揮できる豊かな社会実現のため、あらゆる分野における男女共同参画社会形成の実現に向けた取組みを推進しています。

この基本法に基づき、「第4次男女共同参画基本計画策定に向けての基本的な考え方」として示された男女共同参画会議からの答申を受け、平成27年12月に、「第4次男女共同参画基本計画」が閣議決定されたところです。

また、農林水産分野においては、「食料・農業・農村基本法」(平成11年7月)、「水産基本法」(平成13年6月)、「森林・林業基本法」(平成13年7月一部改正)が制定され、それぞれ5年度ごとに示される基本計画によって、女性の農林水産業における役割を適正に評価するとともに、女性が自らの意思によって農林水産業及びこれに関連する活動に参画する機会を確保するための条件整備を推進しています。

なお、「農山漁村男女共同参画推進指針」(平成11年11月)の策定により、男女を問わず「個」としての主体性を確立し、農林水産業及び農山漁村社会の担い手として、その持てる

能力を十分に発揮するとともに、適切に評価され、経営や地域社会の方針決定に参画できる男女共同参画社会を実現するため、各種施策が講じられています。

(2) 県の動き

平成7年8月に「山口県農山漁村女性に関する中長期ビジョン」を策定し、その実現に向けて、平成12年3月に「農山漁村男女のパートナーシップに関する指標（ともにキラめくチャレンジ指標）」を策定し、農林水産業や農山漁村における男女のパートナーシップの確立に向けて指標の具体的な目標数値を設定しました。

平成18年7月に、ビジョンの成果と農山漁村女性をとりまく環境変化等を踏まえて、「第2次山口県農山漁村女性に関する中長期ビジョン」を策定するとともに、「農山漁村男女のパートナーシップに関する指標」の指標項目と目標数値を見直し、ビジョン本体に位置づけました。5年後の平成23年3月に指標を見直し、到達度合いにより女性の力や役割を評価しつつ、めざそうとする方向への取組みを推進してきました。

なお、「山口県男女共同参画推進条例」(平成12年7月制定)の基本理念を継承し、国の基本計画、関係法令を踏まえて平成28年3月に策定された「第4次山口県男女共同参画基本計画」においては、基本目標の「男女が共に活躍できる地域社会づくり」の中に「地域・農山漁村における男女共同参画の推進」として位置付けています。

3 性格と役割

(1) 性格

- ア 県政運営の指針である「元気創出やまぐち！未来開拓チャレンジプラン」の策定に合わせ、農林水産業の活力創出に向けて取り組む施策や目標を明らかにした「やまぐち農林水産業活力創出行動計画」との整合性を保ちつつ、農林水産業・農山漁村において働き暮らす女性の視点から「農山漁村女性のめざそうとする姿」を示すものです。
- イ 本県の男女共同参画の取組と密接に連携しながら、農山漁村分野における男女共同参画の推進を図るものです。

(2) 役割

- ア 県が進める農山漁村女性に関する施策の総合性、計画性を確保するもの。
- イ 市町に対して、県との緊密な連携のもとに、一体的な施策を推進することを期待するもの。
- ウ 農山漁村女性自身や県民、家庭、団体等に対しては、地域の創意と工夫による主体的かつ積極的な農山漁村女性活動や対策が展開されることを期待するもの。

4 計画の期間

平成28年度(2016年)～平成37年度(2025年) (10年間)

第2 農山漁村女性をとりまく現状

1 女性は本県農林水産業の重要な担い手

(1) 約6割が経営方針決定に参画する農山村女性

女性は農業就業人口の*51.5%、基幹的農業従事者の*44.9%を占め、農業従事者として大きな力となっている。経営における女性の立場については、「経営者、共同経営者である」、あるいは「経営方針決定に自分の意見が反映されている」との回答が、57.5%となっている。

また、今後の事業展開は、「現状を維持したい」との回答が多く、62.2%を占めている。一方で、20～40代では、「事業内容を拡大したい(32.1%)」、「新たな事業領域に取り組みたい(5.4%)」と回答している。(*2015年農林業センサス)

(2) 主に陸上作業を担っている漁村女性

女性は漁業就業人口の*11.6%、海面漁業の陸上作業従事者の*35.2%を占めている。経営における女性の立場については、「経営者、共同経営者である」、あるいは「経営方針決定に自分の意見が反映されている」との回答が、30.8%となっている。陸上作業のみ関わっている女性が20～50代で62.5%、60代以上で35.8%となっている。

経営についての悩みについては、「漁業所得が低い」、「漁業後継者がいない」、「経営費と家計費のやりくりが困難」等を挙げているが、今後の事業展開は、「現状を維持したい」との回答が多く、54.9%を占めている。(*2013年漁業センサス)

(3) 集落営農法人への参画が期待されている農山村女性

集落営農法人の「構成員である」と回答した農山村女性は8.7%で、女性が現在担っている仕事は、「機械の補助作業や作物の栽培管理等の農作業一般(65.0%)」、次いで「役員(25.2%)」、「経理事務(22.8%)」となっている。

一方で、法人経営における女性への期待は、「農作業の人員確保のための女性の参画」が50.8%、「加工や直売活動など経営の多角化に向けた女性の参画」が43.2%、「女性の感性を経営に活かすため、役員等への女性登用を進めたい」が35.6%となっている。

(4) 農山漁村女性起業活動の課題は「経営発展と継承」

農山漁村女性起業実態調査(農林水産政策課調べ)によると、経営類型は、「直売所による直接販売(80.7%)」が最も多く、「食品加工(65.5%)」、「農林漁業生産(21.1%)」が続いている。「年間売上300万円未満の経営体」が59.3%を占め、零細な経営規模となっている。起業活動の担い手は、70歳以上(46.5%)、60～69



やまみちゃんブランド商品の合同販売

歳(41.1%)と高齢化しており、経営継承が課題となることが考えられる。

起業活動に従事している農山村女性は、経営発展の大きな課題について、「販売ルートの確保(40.5%)」や「労働力の確保(28.9%)」、「技術・資格の習得(22.1%)」等を挙げており、漁村女性は、「販売ルートの確保(45.9%)」や「原料の調達(37.8%)」、「労働力の確保(27.0%)」等を挙げている。

(5) 若い世代では徐々に生産活動に魅力を見出し新たな事業に意欲

女性が農業・漁業を職業として選択した理由は、「家業なので農業・漁業をやるのは当然と思うから」を挙げた割合が多い。

今後、「新たに関わりたい」、あるいは「取り組みたい事業内容」については、20～40代で、農業では「農産物加工(23.2%)」、「直売所や朝市での販売(16.1%)」、漁業では「直売所や朝市での販売(25.0%)」、「水産物加工(12.5%)」となっている。

(6) 一人前の生産者となるまでには「家族」が頼り

一人前の生産者となるまでに最も苦勞した点として、農山村女性は、「生産に関する知識・技術の習得(36.8%)」や「生産に必要な農業機械、施設、機材等の確保(17.8%)」、この他に、20～40代は「経営資金の調達や資金繰り(28.6%)」を挙げ、漁村女性は、「体力不足やけが・病気(22.0%)」、「経営資金の調達や資金繰り(19.8%)」を挙げている。



林業機械の使い方について研修

生産に関する技術をどのように習得したかは、「家族(配偶者、親など)から教わった」が圧倒的に多く、農山村女性の63.9%、漁村女性の72.5%を占める。

2 農林水産業を担う女性の働く環境

(1) 自分名義の労働報酬を確保している女性は約3割

自分名義で労働報酬を得ている人は、農山村女性は34.4%、漁村女性は36.3%となっており、預貯金等の動産を保有する農山村女性は85.7%、漁村女性は68.1%を占める。融資を受けたことのある人は、農山村女性5.9%、漁村女性11.0%にとどまっている。

(2) 女性たちが求めるのは「生産と生活の調和のとれた働きやすい環境」

女性が農業に従事する上で直面した生活上の問題は、「農業と家事・育児との両立(13.5%)」、「農業と介護との両立(13.1%)」、「買物や医療、交通、教育等が不便(12.3%)」、「プライベート時間の確保(11.9%)」、「地域づきあい(11.7%)」を挙げている。

女性が漁業に従事する上で直面した生活上の問題については、「漁業と家事・育児との両立(15.4%)」、「プライベート時間の確保(14.3%)」、「自分で自由に使えるお金の確保

(9.9%)」等を挙げている。

家族で役割分担や責任、働き方等のルールを文書化する家族経営協定の効果については、協定締結者（男性を含む）が効果を感じている内容として「家族がお互いを尊重するようになり、家族関係がよくなった」、「経営への参画意欲が高まった」等を回答している。

3 女性をとりまく暮らしと地域生活

(1) 多くの家事を担う女性

育児を除いて、家事全般については、男性より女性の負担が大きくなっている。

(2) 地域の組織やグループ活動で仲間づくりと能力発揮

女性が組織やグループ活動に参加して良かったこととして、「友人・知人が増えた（5割以上）」、「みんなと一緒に活動する楽しさを知った（約4割）」と回答している。

また、「教養や技術が身についた（約2割）」、「地域のために役立つことができた（約2割）」などの回答もあった。

一方、若い世代では、「参加したことがない」との回答が約2割あった。



水産物を使った調理実習を通じて仲間づくり

(3) 女性の約半数が集落の方針決定や生産関係の協議の場に参加

集落における活動方針決定の話し合いに参加している人の割合は、農山村女性が54.3%、漁村女性が76.1%、生産関係の協議や説明会等に参加している割合は、農山村女性は42.5%、漁村女性は45.5%となっている。

(4) 高齢になっても多様な活動に意欲的

高齢期の暮らし方についての考え方は、「体力にあった範囲で農業・漁業をしたい」、「趣味を楽しみたい」等の回答が多い。

また、農山漁村における支え合うしくみとして、「助け合いのできる仲間づくり」や「仲間と集う場づくり」が多く挙げられている。*

(*H24.5～6月「支え合いのしくみづくり」に向けた農山漁村女性の意向調査 農林水産政策課調べ)

4 女性の方針決定の場への参画と環境整備

(1) 女性の4割前後は「今以上に積極的に参画すべきである」との意識

女性が方針決定の場に参画することについては、「今以上に積極的に参画すべきである」と回答した割合は、農山村女性46.7%、漁村女性35.4%となっている。

農山漁村の男性は、これらの割合を上回る約5～6割近くが「今以上に積極的に参画す

べきである」と回答し、女性参画に対する期待が大きい。

(2) 女性自身の意識改革や能力向上と外部環境の改善

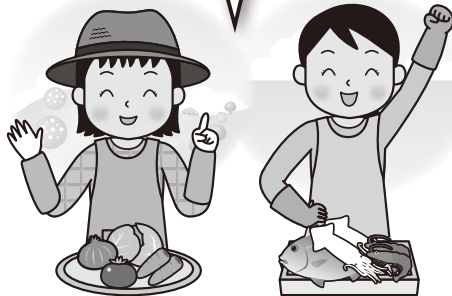
女性の参画を阻害する要因としては、女性自身は、「女性自身が余計な責任を負うことを嫌がるから（約3割）」、「女性が参画しやすい制度やしきみになっていないから（約3割）」、「女性自身の意欲や自信が不足しているから（約3割）」等を挙げている。

今後、女性が活躍するために必要なことは、「女性自身の意欲・意識向上のための学習・研修（約4割）」、「女性のグループや組織活動の活性化（3割弱）」、「農・水産物の加工施設や直売所等、活動拠点の施設整備（約2割）」等の回答があった。

(3) 若い世代が求めるのは「育児や介護のサポート体制の充実」や「女性同士のネットワークづくり」

今後、女性が活躍するために必要なこととして、若い世代はその他の世代と比べて、「育児や介護のサポート体制の充実」、「女性同士のネットワークづくり」と回答した割合が高い。

私は
わが家や地域の
実践者!



支え合いで築く ステキな暮らしを継承しよう

- ① 山・里・海の四季やむらの文化が実感できる暮らしづくり
- ② 自分の能力を発揮し、やりがいを見出す暮らしづくり
- ③ わが家や地域の資源を活かしたむらの暮らしづくり
- ④ まちの人とも共感し合い、支え合う暮らしづくり

① 私が創るむらの暮らしは 自立と共助で実現を

個人としては

私は、自身の生活設計を持ち、自らの判断と行動力で自己実現を図ります。



わが家では

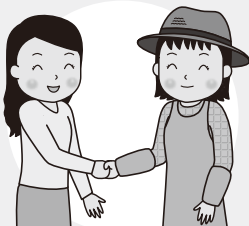
私は、互いの個性を尊重しあい、話し合いによる家庭運営を行います。

また、創意工夫による豊かな生活を、次の世代に継承します。



地域では

私は、地域活動へ積極的に関わり、農山漁村と都市との新たな共生関係を創っていきます。



② 私が選ぶ農林水産業は 自信と誇りを持って

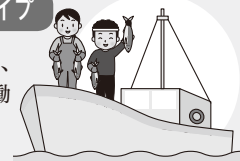
リーダーシップ発揮タイプ

私は、個人事業や組織経営体の経営者またはリーダーとして、経営能力を発揮します。



パートナーシップ発揮タイプ

私は、共同経営者として、家族等が能力を活かして働ける環境を整えます。



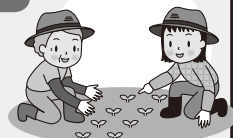
メンバーシップ発揮タイプ

私は、仲間とともに、農林水産業の生産活動や加工・販売活動等に積極的に参画します。



サポータータイプ

私は、これまで培ってきた知識や経験を活かして、生産や加工活動を応援するとともに、継承活動を進めます。



第4

めざそうとする方向とアクションシナリオ

1 意識を「行動」や「かたち」にして、更なる能力発揮を進めよう

【アクションシナリオ】

(1) 課題解決に向けた女性の意識向上と仲間づくり

- ・能力発揮のための学習機会や場づくりを進め、積極的に参加しよう
- ・自分たちを取り巻く問題を明らかにし、改善活動を進めよう
- ・女性が参加できる組織活動やグループ活動を通じてネットワークをつくろう



2 女性も経営に参画し、魅力ある農林水産業をつくっていこう

【アクションシナリオ】

(1) 生産活動を担う女性の能力開発と次世代の育成

- ・生産技術を習得・継承し、経営管理能力を高める研修機会や場づくりを進めよう
- ・仕事と生活の調和に配慮した働きやすい環境をつくろう
(家族経営協定の活用、育児・介護サポート体制の充実、補助作業具の導入など)

(2) 中核経営体のリーダー、構成員としての能力発揮

- ・農山漁村女性起業活動を地域で愛され続ける企業にしていこう
- ・集落営農法人等、法人経営体で女性の力を発揮しよう

3 むらとまちが支え合い持続可能なむらの暮らしをつくっていこう

【アクションシナリオ】

(1) 地域活動を担う女性の能力発揮と次世代への継承

- ・仲間とともに暮らしや地域の課題を話し合い、改善していこう
- ・地域の文化・暮らしの技術を継承し、農山漁村の良さを伝えよう

(2) 地域内外の支え合いで継承する生産と暮らし

- ・地域内外の多様な人とつながり、暮らし続けるための支え合いのしくみをつくろう
(県内大学・市町・企業・都市生活者等との連携、協働など)
- ・地域資源を活かし、地域の課題解決につながる仕事づくりを進めよう



4 女性の活動を支える体制づくりを進めていこう

【アクションシナリオ】

(1) さらなる方針決定の場への参画促進

- ・各種認定制度の充実と認定者の役割発揮の場の拡大を進めよう
- ・関係機関・団体が連携し、応援できる体制の充実・強化を図ろう
- ・政策や方針決定の場への女性登用を進めよう

第5

農山漁村男女のパートナーシップ指標

(平成32年目標)

ビジョンにおけるめざそうとする方向	目標値	現況H27 (H27.3.31現在)
I 女性の意識を行動やかたちに		
1 組織・団体での方針決定の場へ参画促進		
(1)農業協同組合正組合員に占める女性割合	33 %以上	32.8 %
(2)農業協同組合総代に占める女性割合	15 %以上	10.4 %
(3)女性理事・経営管理委員等3人以上設置農業協同組合数	12 組合	6 組合
(4)農業委員に占める女性割合	15 %	10.1 %
(5)漁業協同組合女性役員数	2 人	1 人
II 魅力ある農林水産業の推進		
1 経営参画推進		
(1)家族経営協定の文書締結数 (農家)	500 件	330 件
(漁家)	80 件	54 件
(2)認定農業者に占める女性割合	10 %	4.5 %
(3)女性役員がいる集落営農法人割合	30 %	25.9 %
(4)女性起業家・グループ数	280 件	275 件
(5)起業した女性グループ等の法人数	35法人	16法人
III 女性の活動を支える体制づくり		
1 地域での政策方針決定の場への参画促進		
(1)審議会に占める女性割合	現状の水準を 維持	45.2 %
2 地域に提言できる女性リーダーの育成		
(1)農家生活改善士認定者数	168 人	143 人(※)
(2)漁村生活改善士認定者数	28 人	26 人(※)

(注)「農山漁村男女のパートナーシップ指標」は、農山漁村における男女共同参画の達成度合いを把握するために、目標値を示したもので、5年ごとに見直すこととしています。

(※)はH27.4.1現在値

参考資料編

～農山漁村の女性をとりまく現状～



*出典・資料名を記載したグラフ・図表を除き、「山口県農山漁村女性に関する意向調査」の結果から参考資料編をまとめました。

*「山口県農山漁村女性に関する意向調査」について

- 1 実施主体 山口県
- 2 調査協力 山口県農山漁村女性連携会議
- 3 調査対象 山口県内の農山漁村女性及び農林水産業に従事する男性
- 4 調査時期 平成27年1月～3月
- 5 調査方法及び回答状況

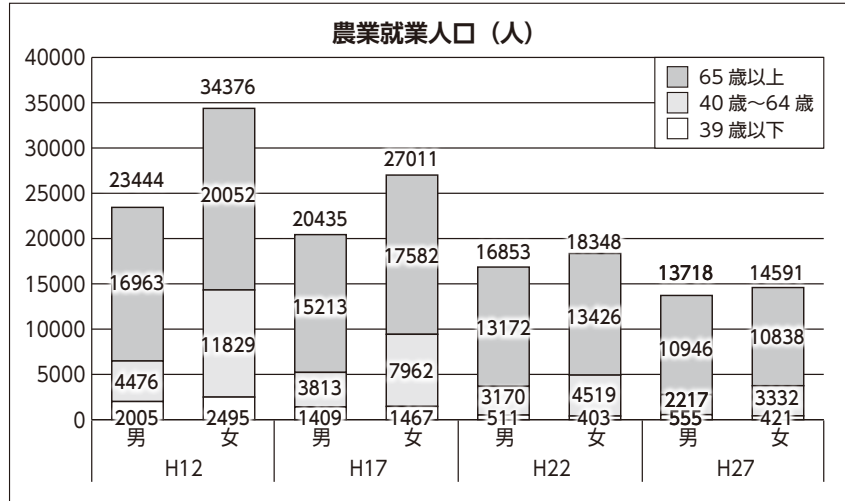
山口県農山漁村女性連携会議の構成団体並びに、関係組織、各農林事務所を通じて、調査票を配布・回収（配布部数：2,234 回収部数：1,892 回収率：84.7%）

調査票	設問数	配布数	回収数	有効回答数	調査方法
ア 農村女性	40	1,522	1,369	1,365	・山口県農山漁村女性連携会議の構成団体を通じて調査票を配布・回収 ・新規就農者など50歳未満の女性は、各農林事務所を通じて、調査票を配布・回収
イ 農村男性	25	214	133	133	・新規就農者など50歳未満の男性は、各農林事務所を通じて、調査票を配布・回収 ・山口県農業士協会会員へ郵送により調査票を配布・回収
ウ 集落営農法人	19	169	132	132	・山口県集落営農法人連携協議会会員へ郵送により調査票を配布・回収
エ 漁村女性	38	270	227	226	・山口県農山漁村女性連携会議の構成団体を通じて調査票を配布・回収
オ 漁村男性	28	59	31	31	・山口県指導漁業士及び山口県青年漁業士へ郵送により調査票を配布・回収
計		2,234	1,892	1,887	

1 女性は本県農林水産業の重要な担い手

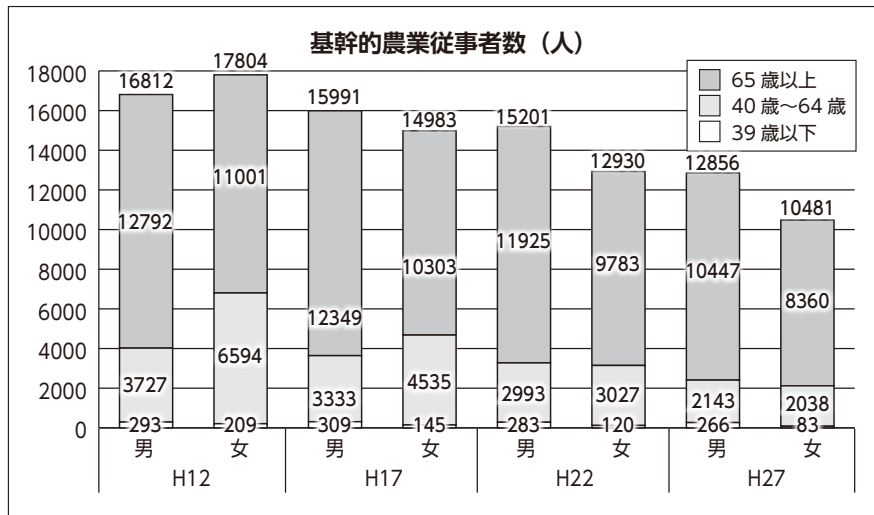
(1) 約6割が経営方針決定に参画する農山村女性

ア 農業における女性の就業状況 [本文第2-1-(1)]



	2000年センサス(H12)			2005年センサス(H17)			2010年センサス(H22)			2015年センサス(H27)		
	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女
農業就業人口(人)	57,820	23,444	34,376	47,446	20,435	27,011	35,201	16,853	18,348	28,309	13,718	14,591
割合(%)	100.0	40.5	59.5	100.0	43.1	56.9	100.0	47.9	52.1	100.0	48.5	51.5
うち65歳以上(人)	37,015	16,963	20,052	32,795	15,213	17,582	26,598	13,172	13,426	21,784	10,946	10,838
割合(%)	100.0	45.8	54.2	100.0	46.4	53.6	100.0	49.5	50.5	100.0	50.2	49.8
うち40歳未満(人)	4,500	2,005	2,495	2,876	1,409	1,467	914	511	403	976	555	421
割合(%)	100.0	44.6	55.4	100.0	49.0	51.0	100.0	55.9	44.1	100.0	56.9	43.1

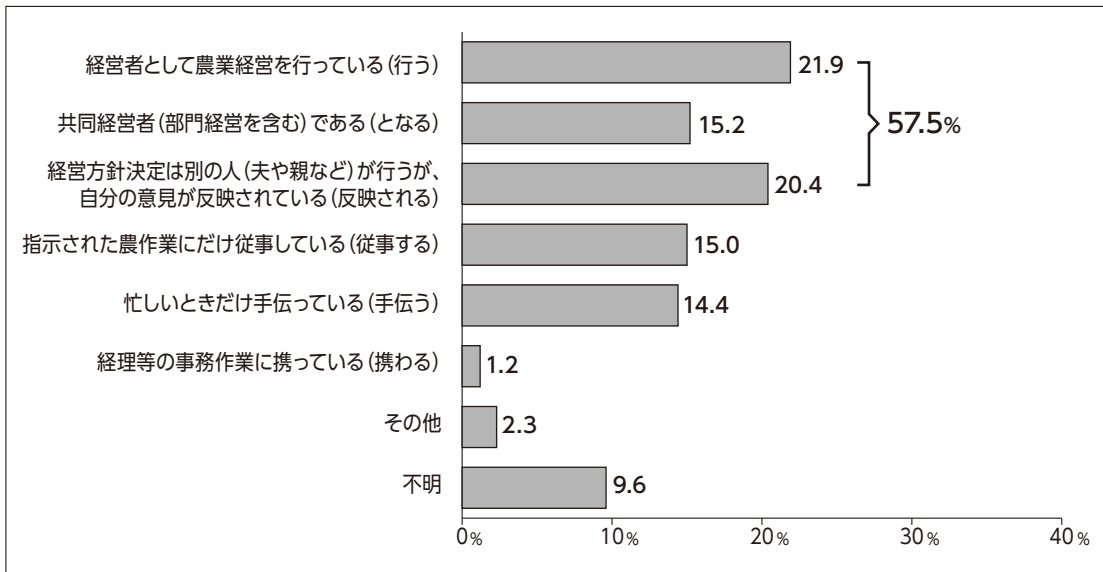
[資料] 農林水産省「農林業センサス」



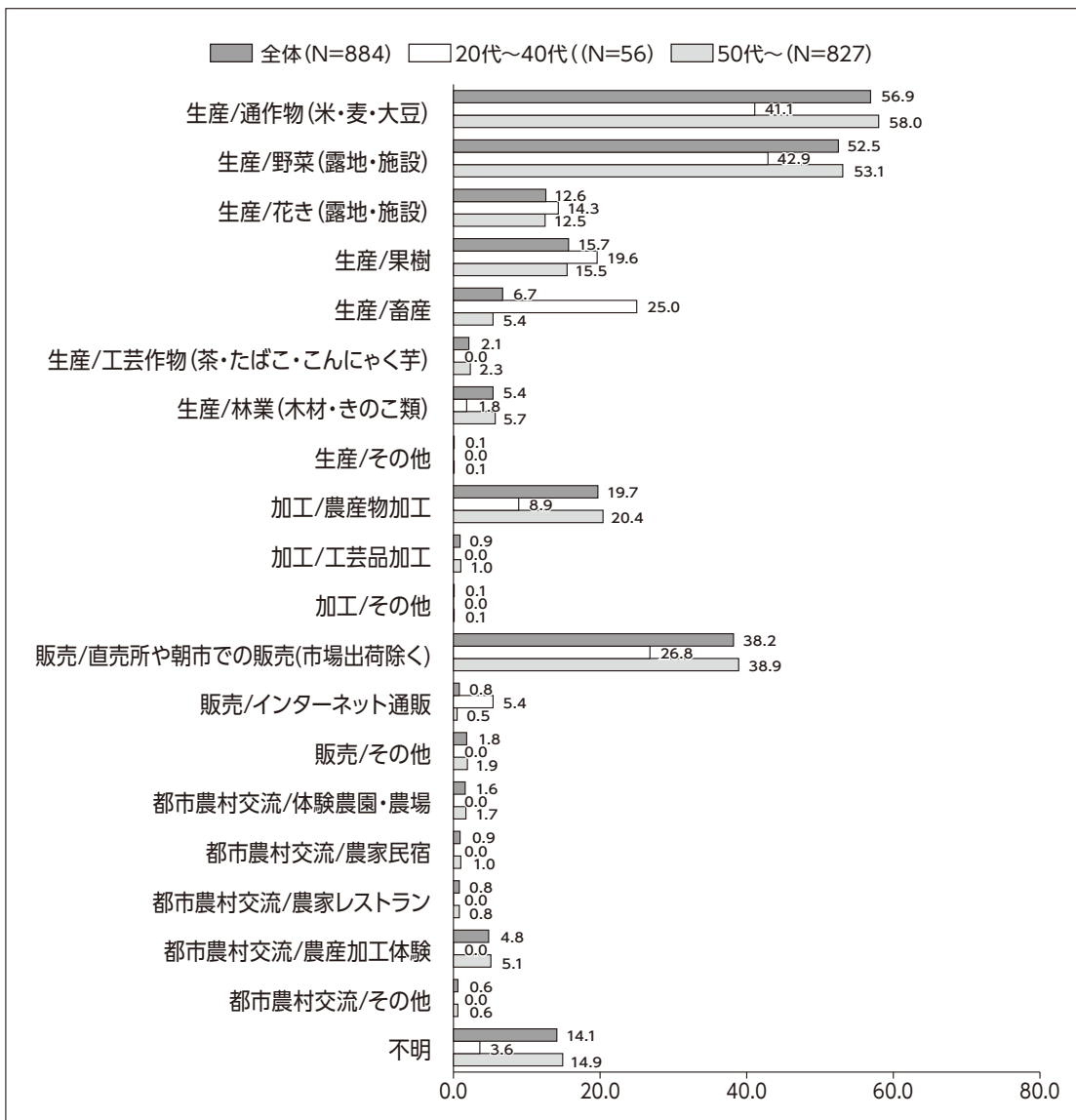
	2000年センサス(H12)			2005年センサス(H17)			2010年センサス(H22)			2015年センサス(H27)		
	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女
基幹的農業従事者数(人)	34,616	16,812	17,804	30,974	15,991	14,983	28,131	15,201	12,930	23,337	12,856	10,481
割合(%)	100.0	48.6	51.4	100.0	51.6	48.4	100.0	54.0	46.0	100.0	55.1	44.9
うち65歳以上(人)	23,793	12,792	11,001	22,652	12,349	10,303	21,708	11,925	9,783	18,807	10,447	8,360
割合(%)	100.0	53.8	46.2	100.0	54.5	45.5	100.0	54.9	45.1	100.0	55.5	44.5
うち40歳未満	502	293	209	454	309	145	403	283	120	349	266	83
割合(%)	100.0	58.4	41.6	100.0	68.1	31.9	100.0	70.2	29.8	100.0	76.2	23.8

[資料] 農林水産省「農林業センサス」

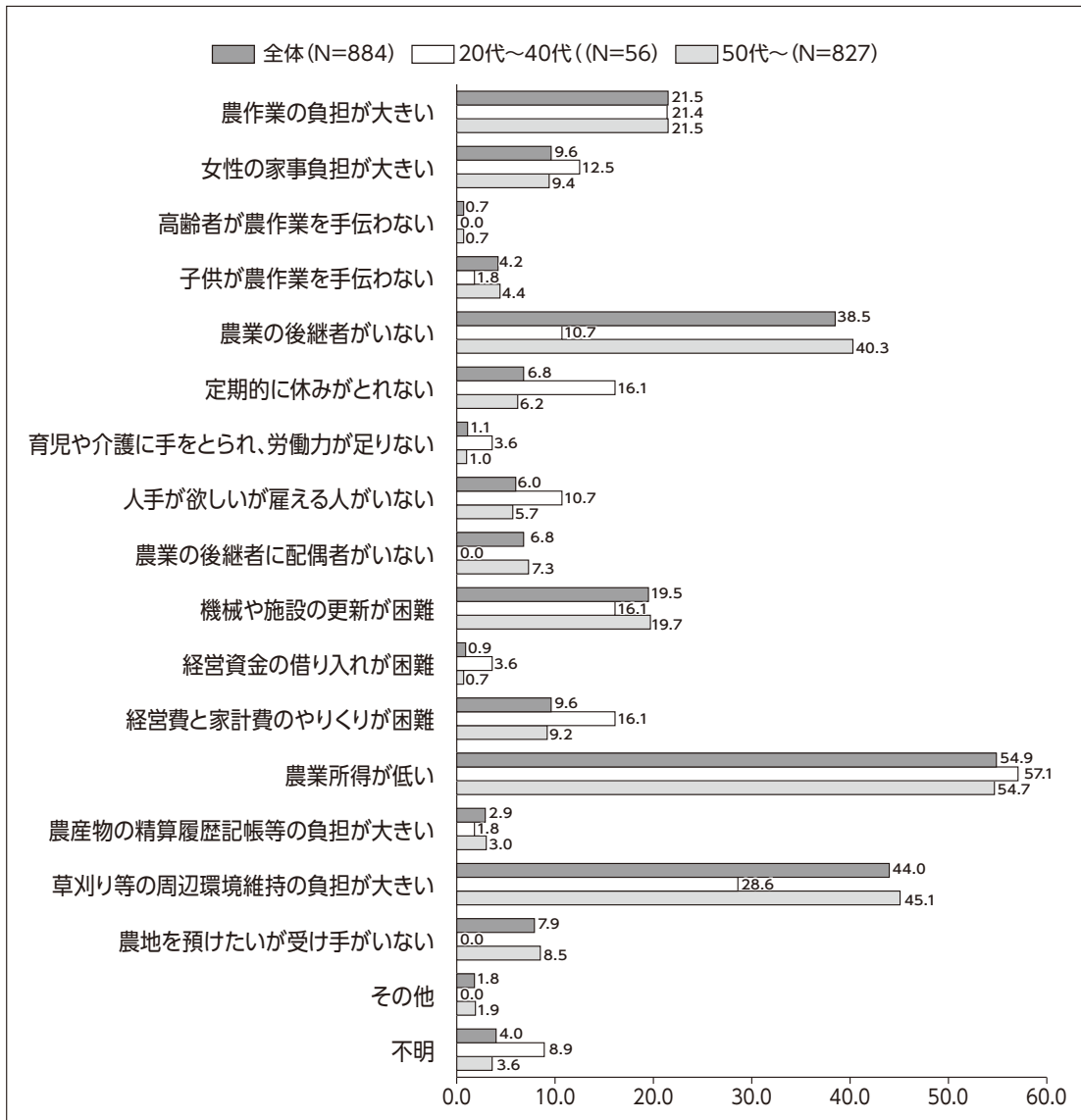
① 農業経営における女性の立場 (%) [本文第 2-1-(1)]



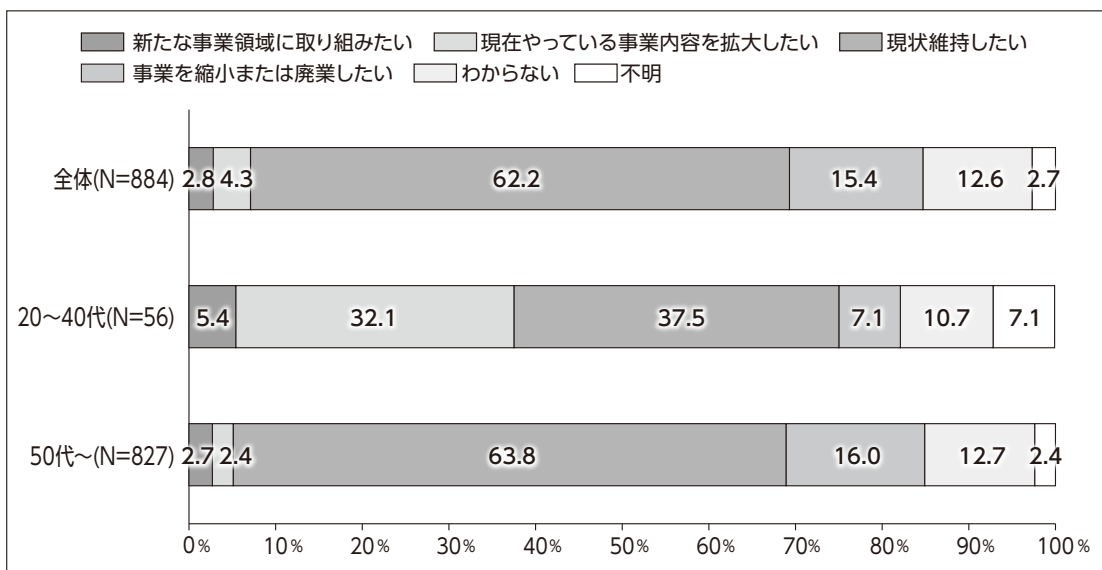
② 農山村女性が現在関わっている事業内容 (%) (複数回答 あてはまるもの全て)



㊦ 農業経営についての女性の悩み (%) (複数回答 3 つ以内)

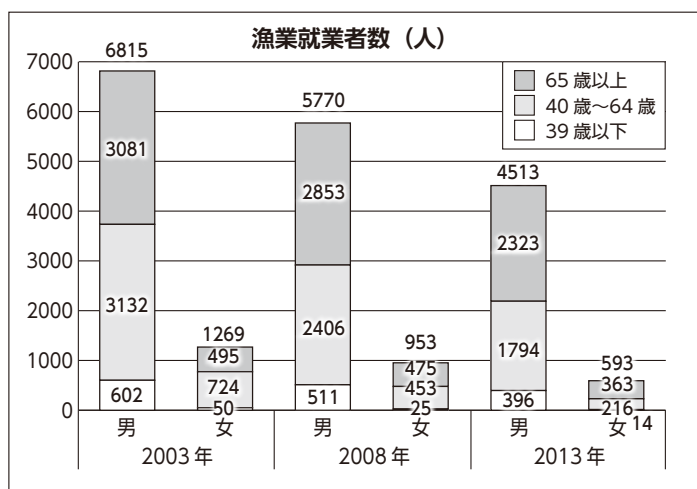


㊧ 今後の事業展開についての農山村女性の意向 (%) [本文第 2-1-(1)]



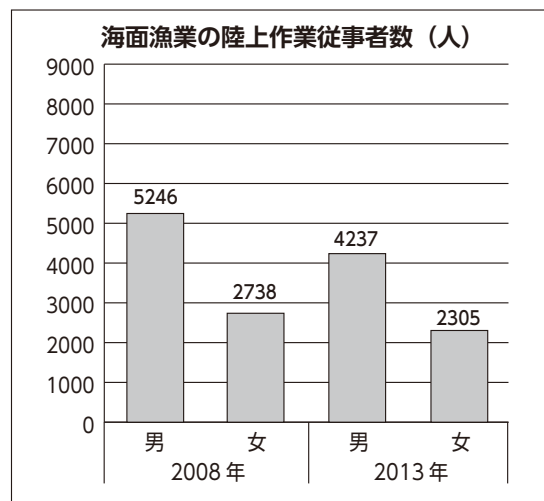
(2) 主に陸上作業を担っている漁村女性

㉗ 漁業における女性の従事・就業状況 [本文第 2-1-(2)]



	2003年センサス(H15)			2008年センサス(H20)			2013年センサス(H25)		
	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女
漁業就業者数(人)	8,084	6,815	1,269	6,723	5,770	953	5,106	4,513	593
割合(%)	100.0	84.3	15.7	100.0	85.8	14.2	100.0	88.4	11.6
うち65歳以上(人)	3,576	3,081	495	3,328	2,853	475	2,686	2,323	363
割合(%)	100.0	86.2	13.8	100.0	85.7	14.3	100.0	86.5	13.5
うち40歳未満(人)	652	602	50	536	511	25	410	396	14
割合(%)	100.0	92.3	7.7	100.0	95.3	4.7	100.0	96.6	3.4

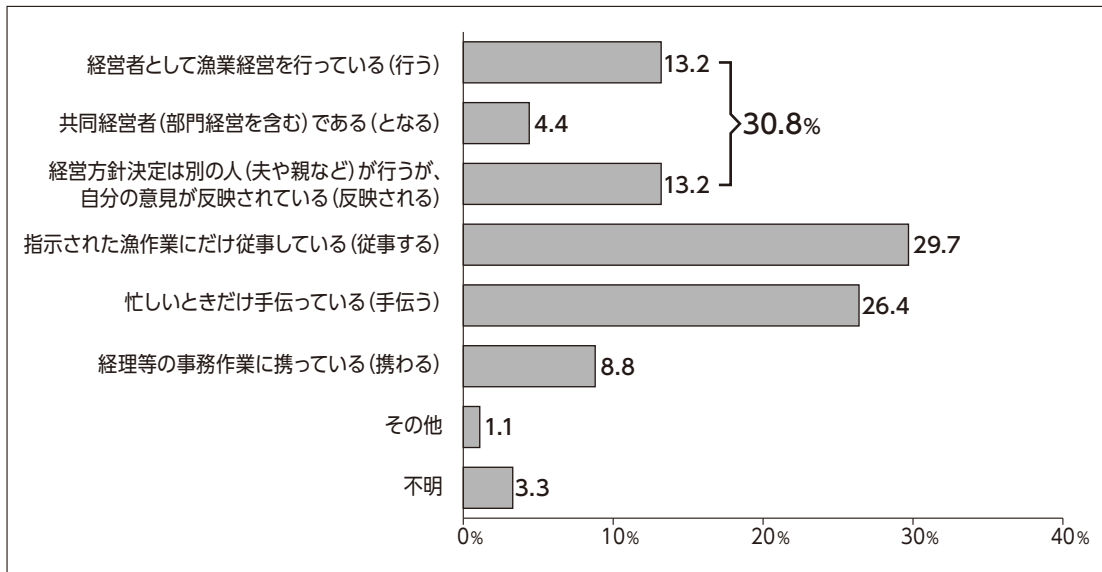
[資料] 農林水産省「漁業センサス」



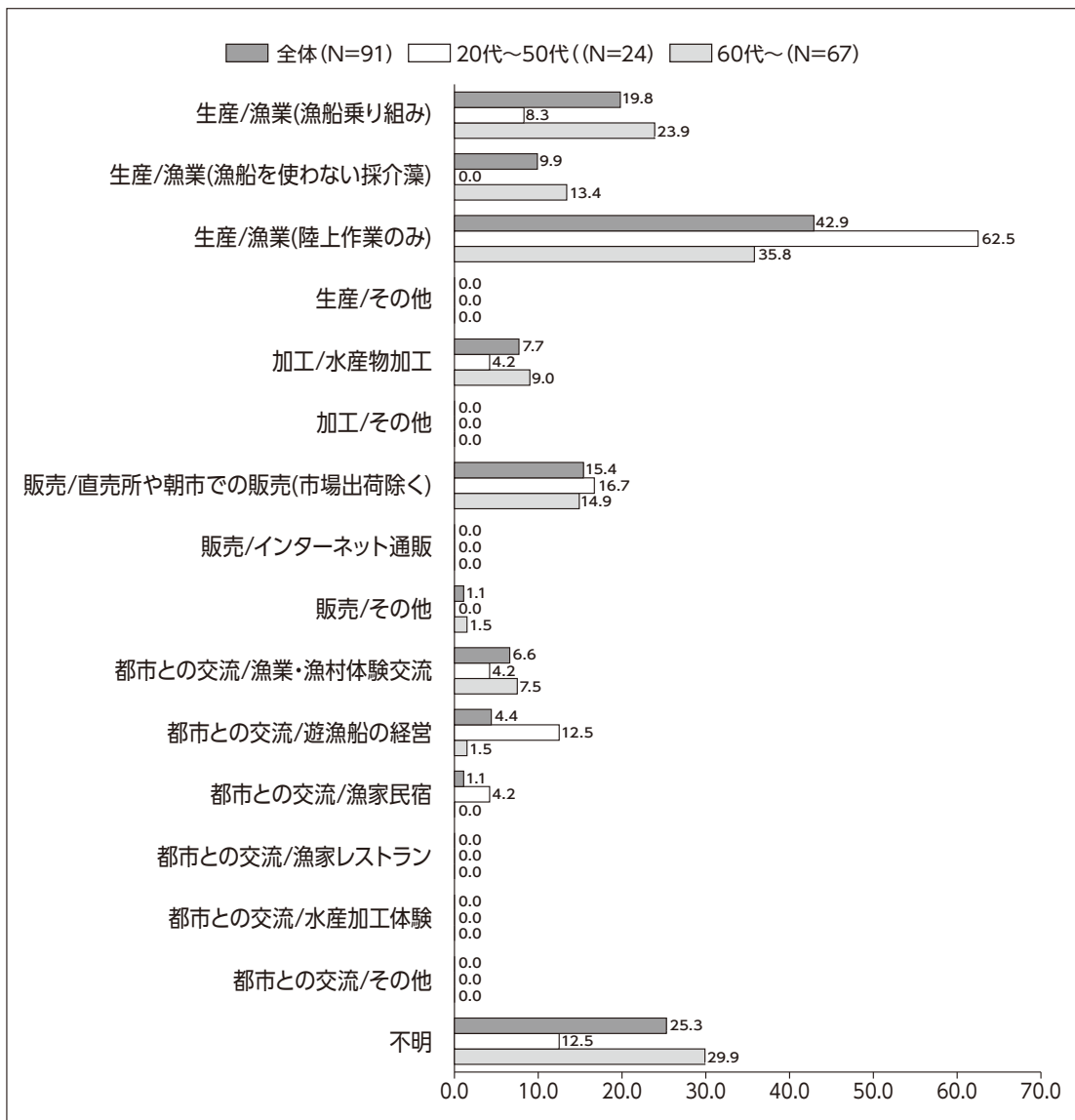
	2008年センサス(H20)			2013年センサス(H25)		
	男女計	男	女	男女計	男	女
海面漁業の陸上作業従事者数(人)	7,984	5,246	2,738	6,542	4,237	2,305
割合(%)	100.0	65.7	34.3	100.0	64.8	35.2

[資料] 農林水産省「漁業センサス」

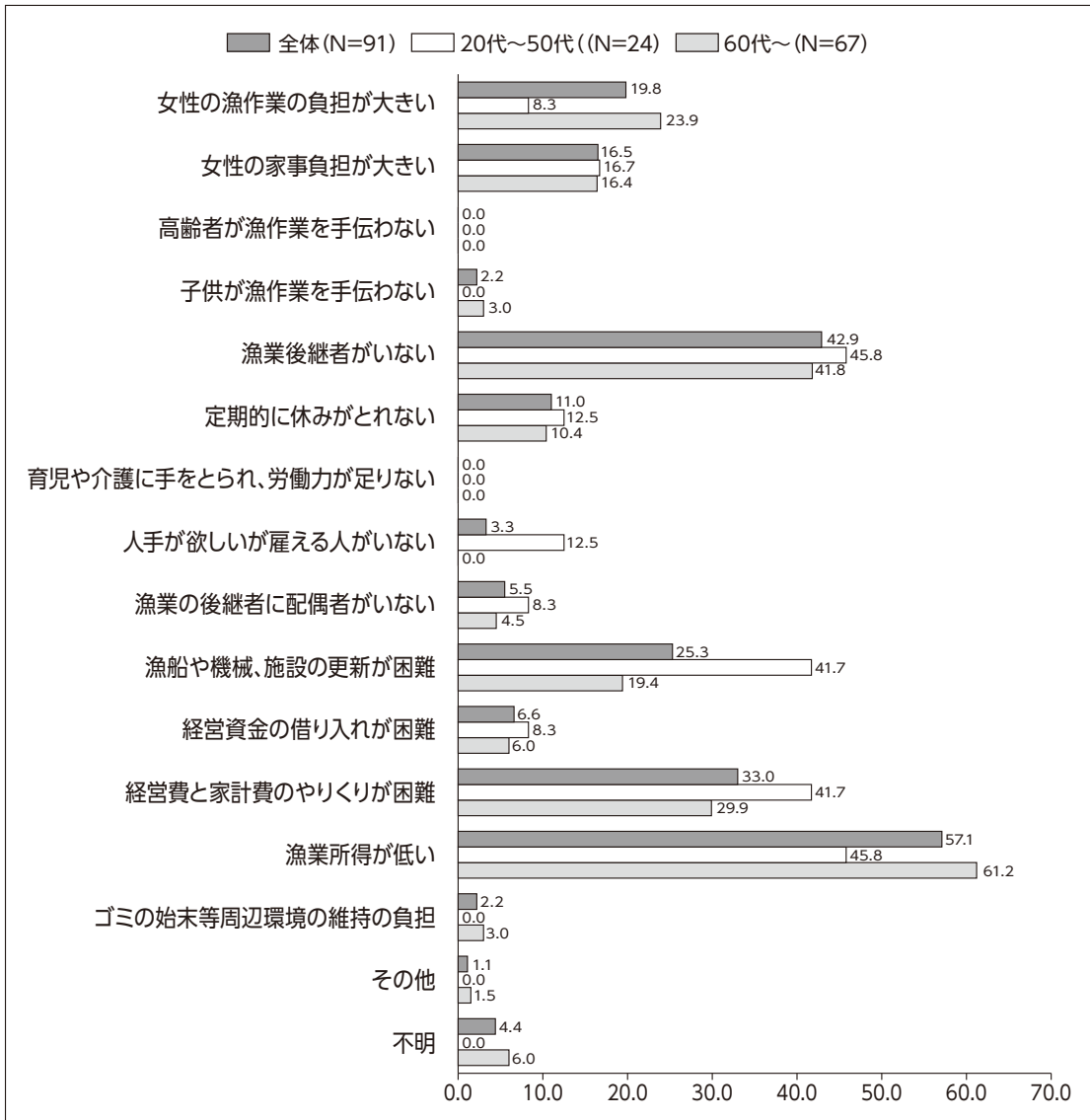
① 漁業経営における女性の立場 (%) [本文第 2-1-(2)]



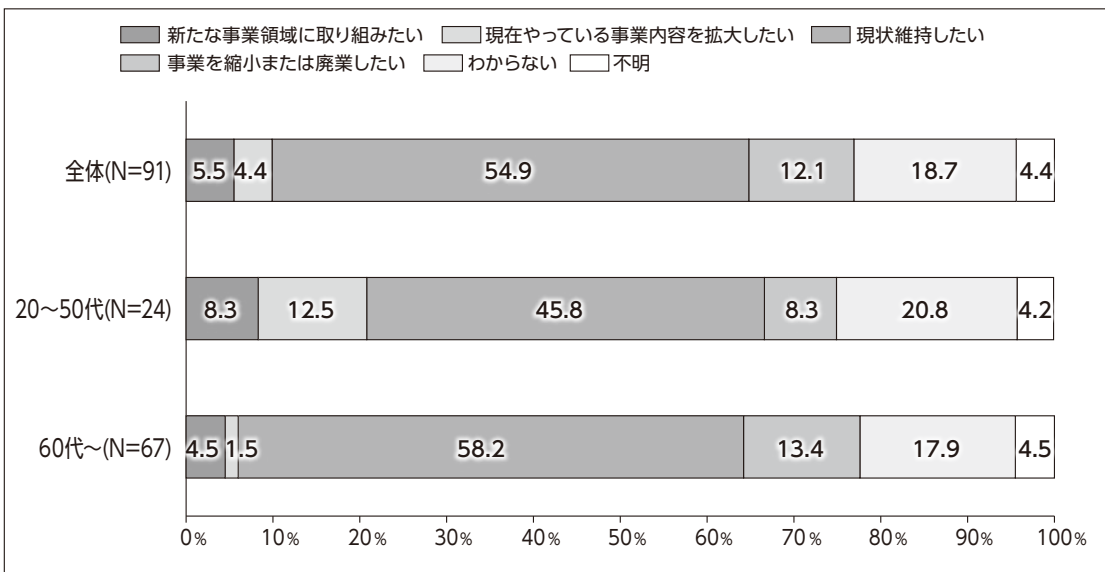
② 漁村女性が現在関わっている事業内容 (%) (複数回答 あてはまるもの全て) [本文第 2-1-(2)]



④ 漁業経営についての女性の悩み (%) (複数回答 3つ以内) [本文第 2-1-(2)]

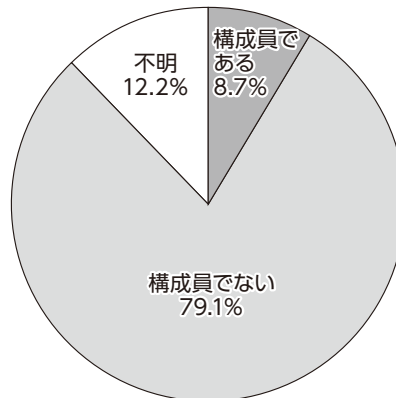


⑤ 今後の事業展開についての漁村女性の意向 (%) [本文第 2-1-(2)]

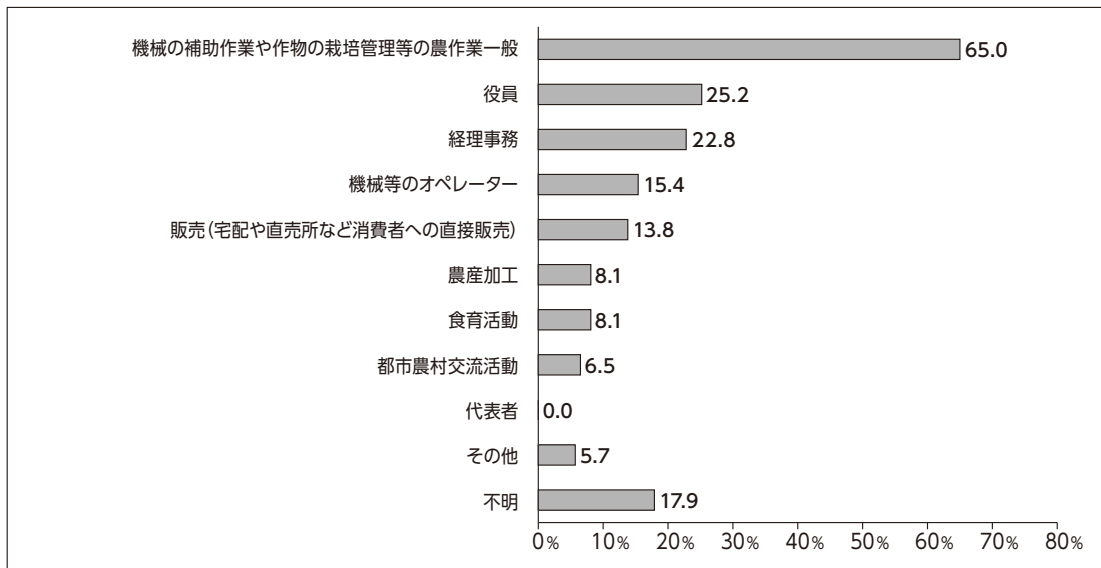


(3) 集落営農法人への参画が期待されている農山村女性

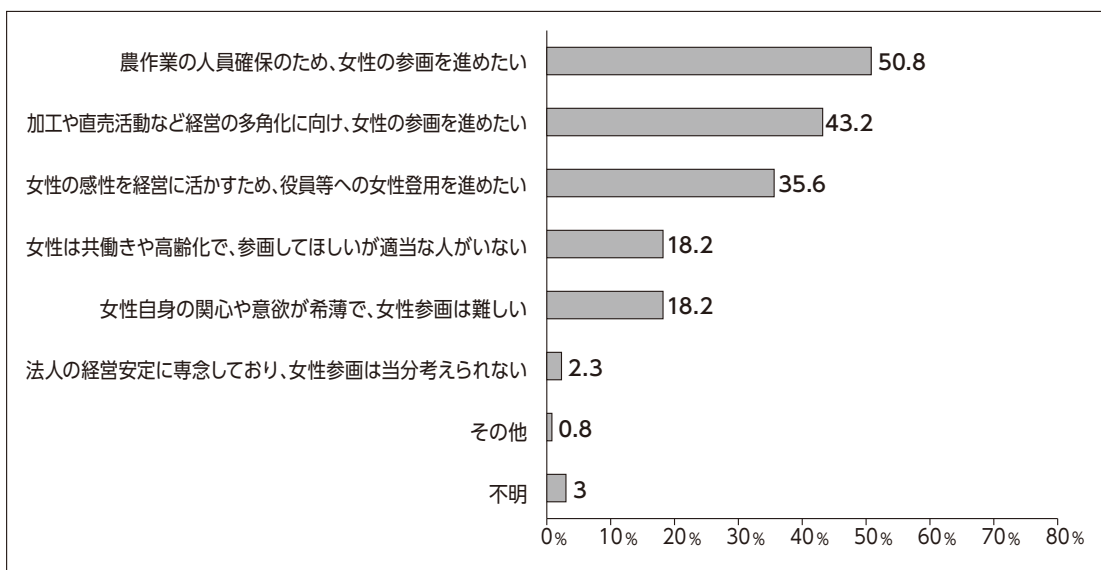
㉗ 集落営農法人への構成員としての参加状況 (%) [本文第 2-1-(3)]



㉘ 集落営農法人において女性が現在、関わっている仕事内容 (%) (複数回答 あてはまるものすべて) [本文第 2-1-(3)]



㉙ 集落営農法人の女性参画に対する考え (%) (複数回答 2つまで) [本文第 2-1-(3)]



(4) 農山漁村女性起業活動の課題は、経営発展と継承

ア 農山漁村女性起業の実態

(ア) 形態

個人	60
グループ	215
計	275

〔資料〕 県農林水産政策課「農山漁村女性起業実態調査 (H27.3現在)」

(イ) 経営類型 (複数回答) [本文第 2-1-(4)]

	農林漁業生産	食品加工	食品以外の加工	直接販売			都市との交流					その他		
				直売所	インターネットでの販売	その他	農林漁業体験(体験農園・農場)	農林漁家民宿	農林漁家レストラン	農林水産加工体験	その他			
全体	58	180	17	244	222	7	49	81	15	4	13	41	19	14
	21.1%	65.5%	6.2%	88.7%	80.7%	2.5%	17.8%	29.5%	5.5%	1.5%	4.7%	14.9%	6.9%	5.1%
グループ	35	134	14	146	175	5	38	39	9	0	8	31	14	12
	16.3%	62.3%	6.5%	67.9%	81.4%	2.3%	17.7%	18.1%	4.2%	0.0%	3.7%	14.4%	6.5%	5.6%
個人	23	46	3	51	47	2	11	23	6	4	5	10	5	2
	38.3%	76.7%	5.0%	85.0%	78.3%	3.3%	18.3%	38.3%	10.0%	6.7%	8.3%	16.7%	8.3%	3.3%

〔資料〕 県農林水産政策課「農山漁村女性起業実態調査 (H27.3現在)」

(ウ) 過去1年間の売上金額 (税込) [本文第 2-1-(4)]

	300万円未満	300万円以上～500万円未満	500万円以上～1千万円未満	1千万円以上～3千万円未満	3千万円以上～5千万円未満	5千万円以上～1億円未満	1億円以上～	不明
全体	163	30	41	19	5	5	0	12
	59.3%	10.9%	14.9%	6.9%	1.8%	1.8%	0.0%	4.4%
グループ	122	27	32	17	5	5	0	7
	56.7%	12.6%	14.9%	7.9%	2.3%	2.3%	0.0%	3.3%
個人	41	3	9	2	0	0	0	5
	68.3%	5.0%	15.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%

〔資料〕 県農林水産政策課「農山漁村女性起業実態調査 (H27.3現在)」

(エ) 平均年齢層 (グループ経営はメンバーの平均年齢層、個人経営は本人の年齢層) [本文第 2-1-(4)]

	29歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	不明
全 体	0	1	5	27	113	128	1
	0.0%	0.4%	1.8%	9.8%	41.1%	46.5%	0.4%
グループ	0	0	3	16	92	104	0
	0.0%	0.0%	1.4%	7.4%	42.8%	48.4%	0.0%
個 人	0	1	2	11	21	24	1
	0.0%	1.7%	3.3%	18.3%	35.0%	40.0%	1.7%

[資料] 県農林水産政策課「農山漁村女性起業実態調査 (H27.3現在)」

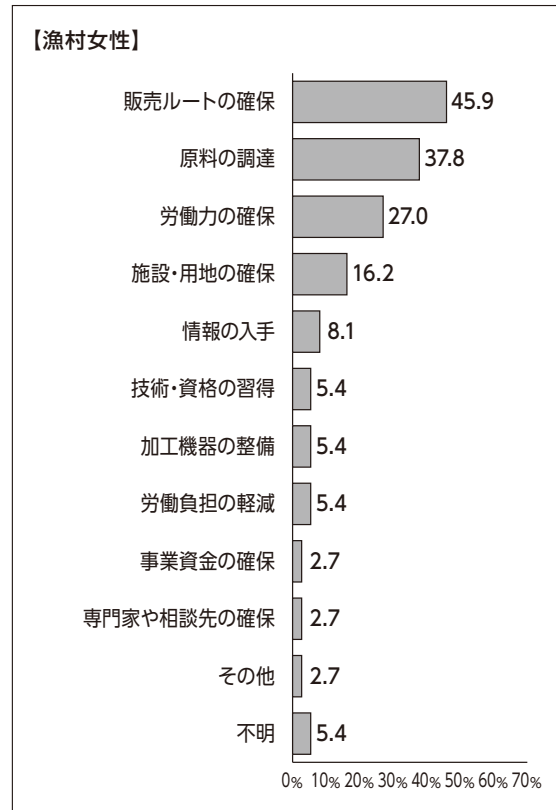
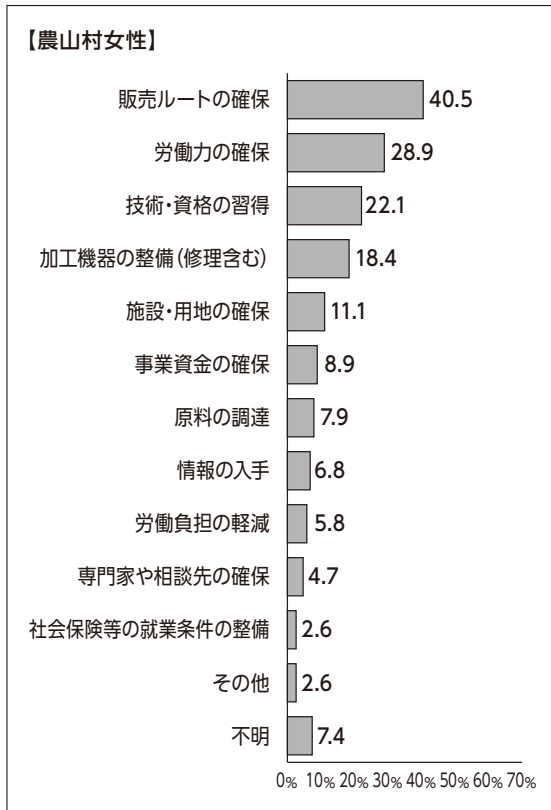
(オ) 法人形態

	株式会社	特例有限会社	農事組合法人	企業組合	人格なき社団
全 体	2	4	13	13	4
	5.6%	11.1%	36.1%	36.1%	11.1%
グループ	1	2	13	13	4
	3.0%	6.1%	39.4%	39.4%	12.1%
個 人	1	2	0	0	0
	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%

[資料] 県農林水産政策課「農山漁村女性起業実態調査 (H27.3現在)」

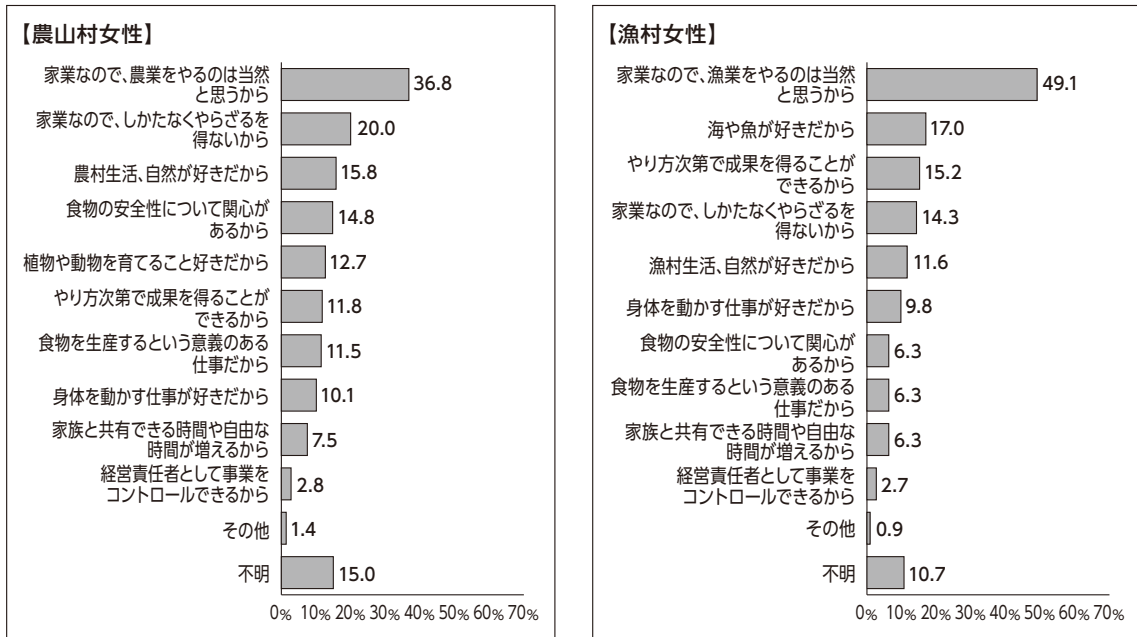
① 農山漁村女性起業活動の課題 [本文第 2-1-(4)]

(ア) 農山漁村女性起業の経営発展に向けての課題 (%) (複数回答 2つ以内)

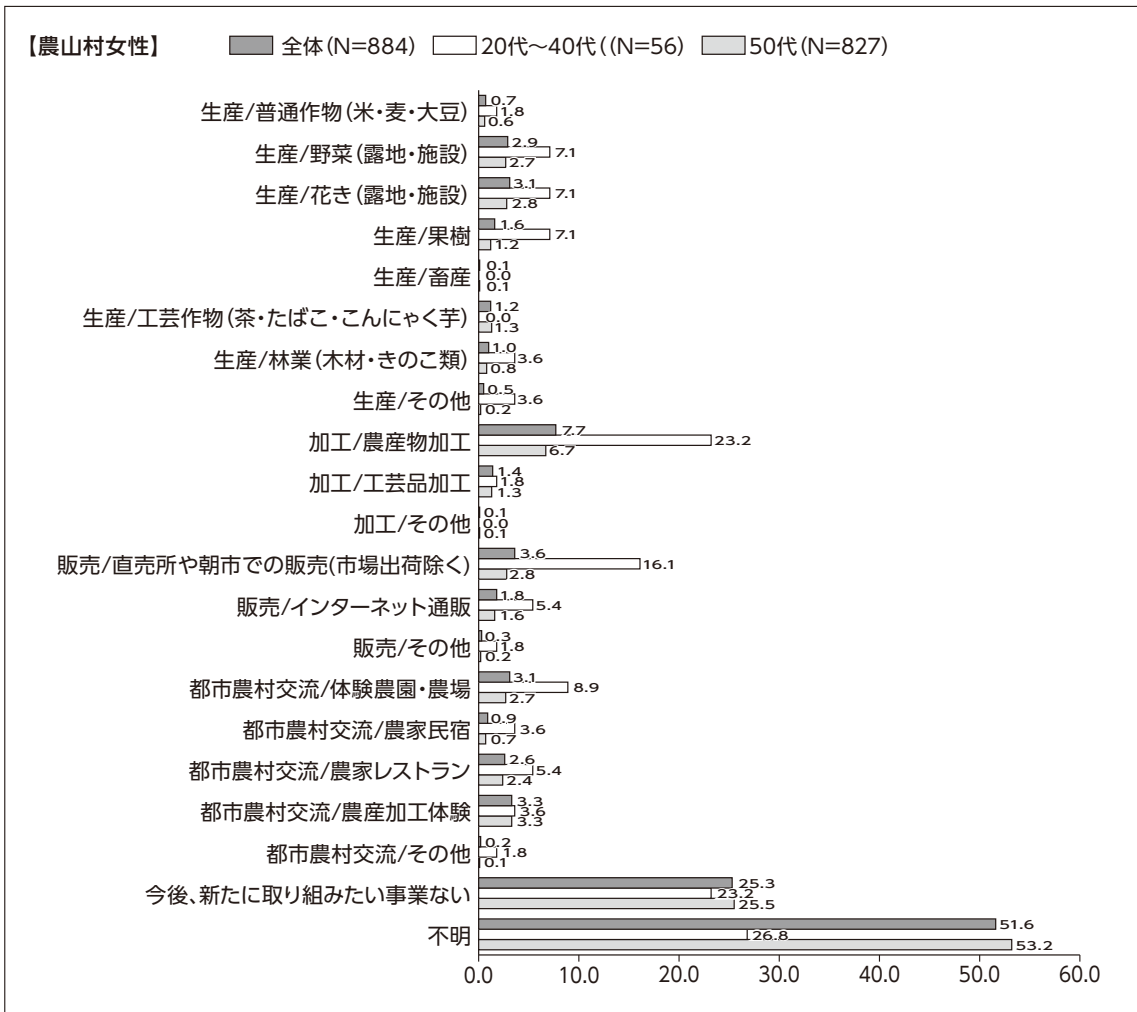


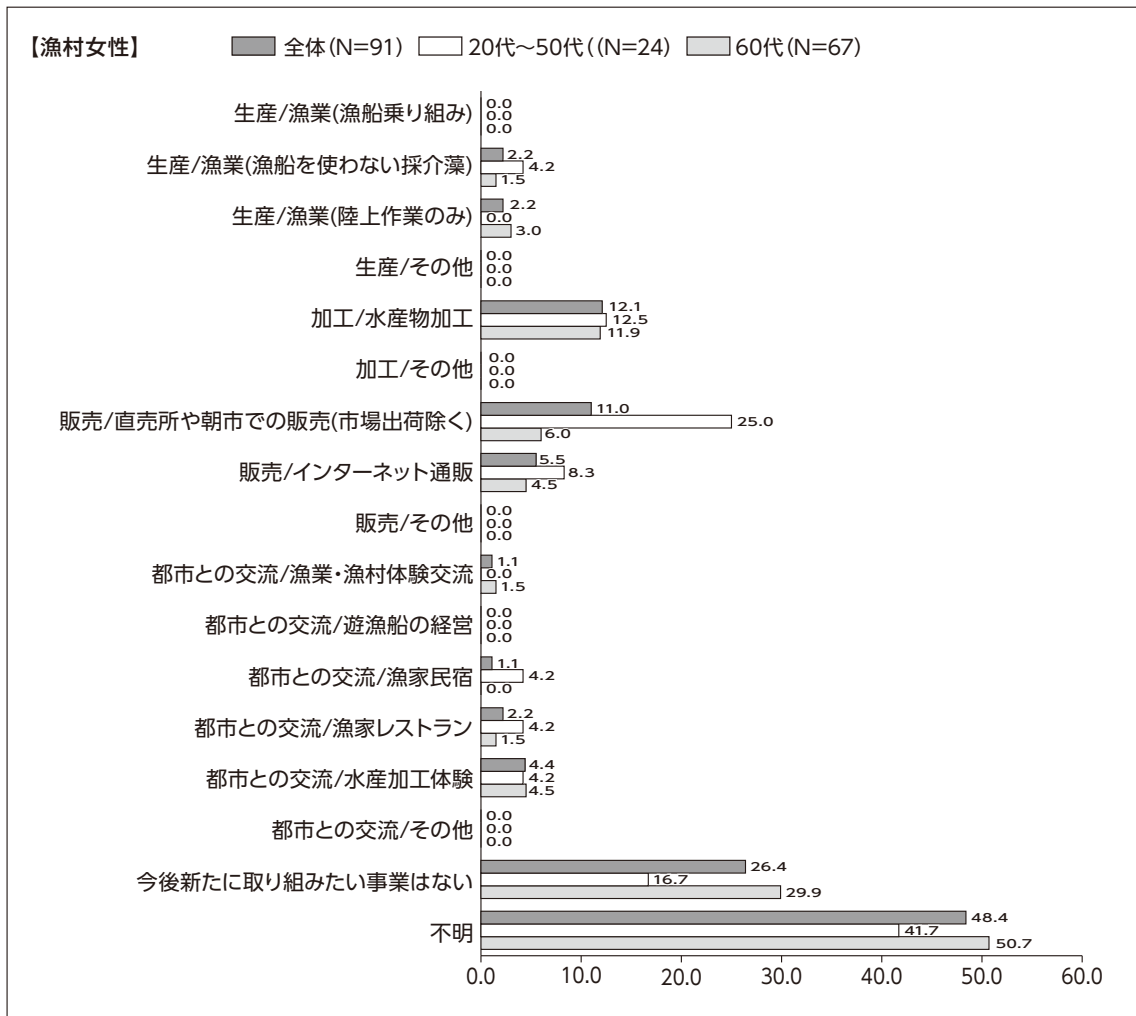
(5) 若い世代では徐々に生産活動に魅力を見出し、新たな事業に意欲

⑦ 女性が農業・漁業を職業として選択した理由 (%) (複数回答 2つ以内) [本文第 2-1-(5)]



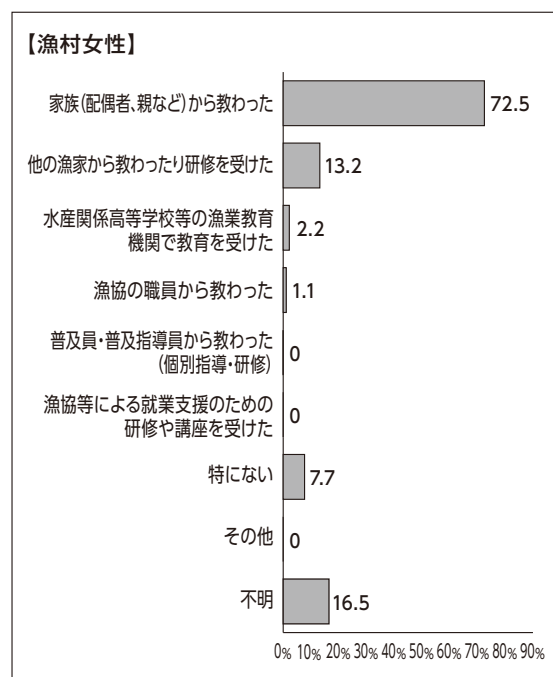
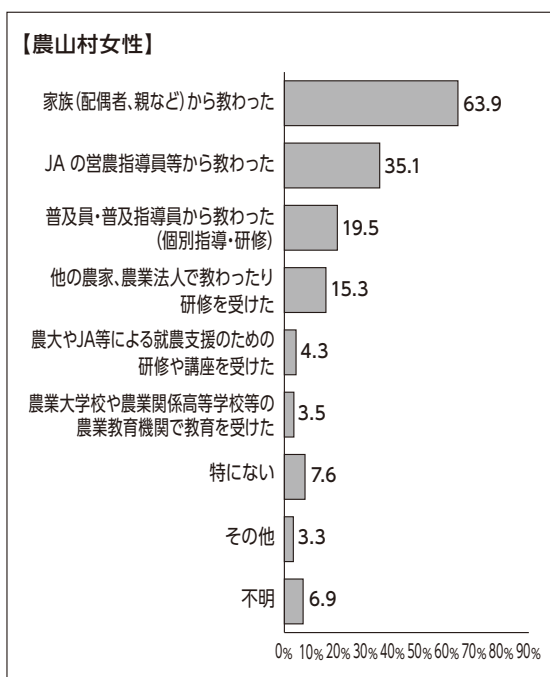
⑧ 今後、新たに関わりたいあるいは取り組みたい事業内容 (%) (複数回答 あてはまるものすべて) [本文第 2-1-(5)]



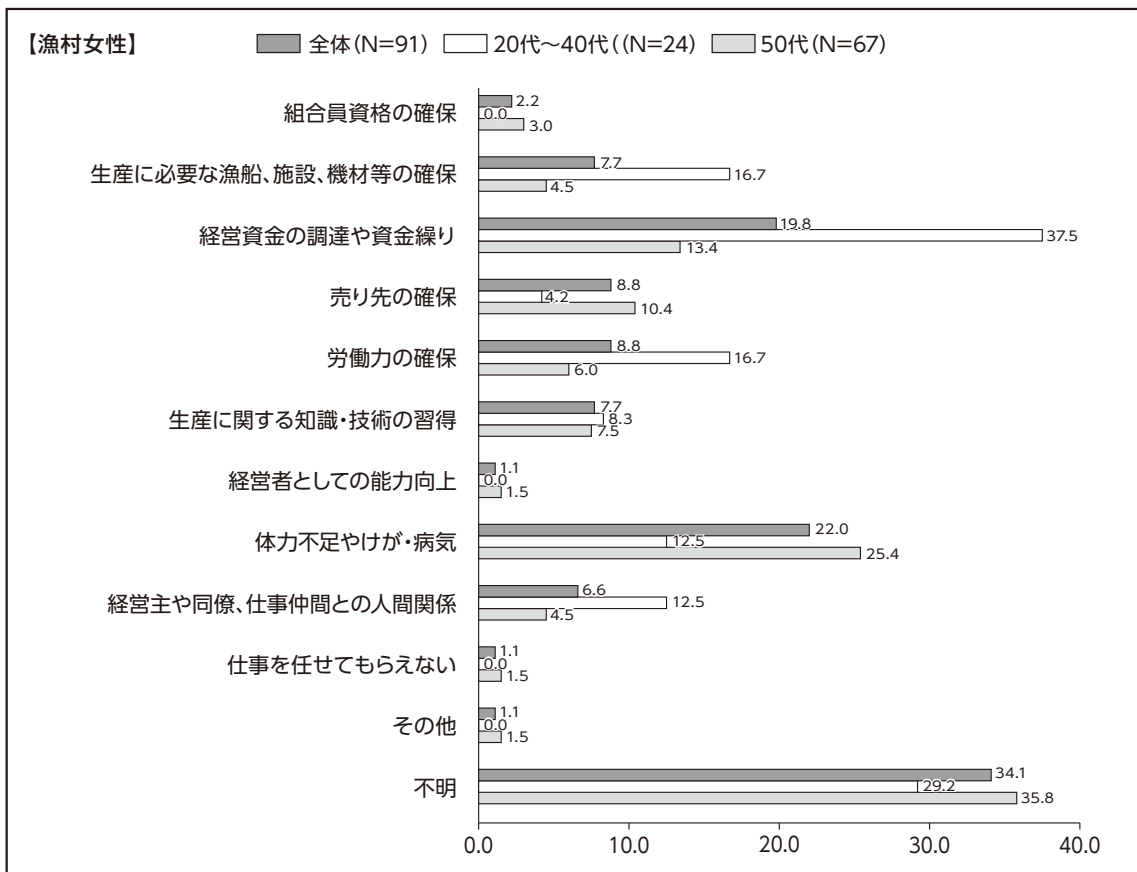
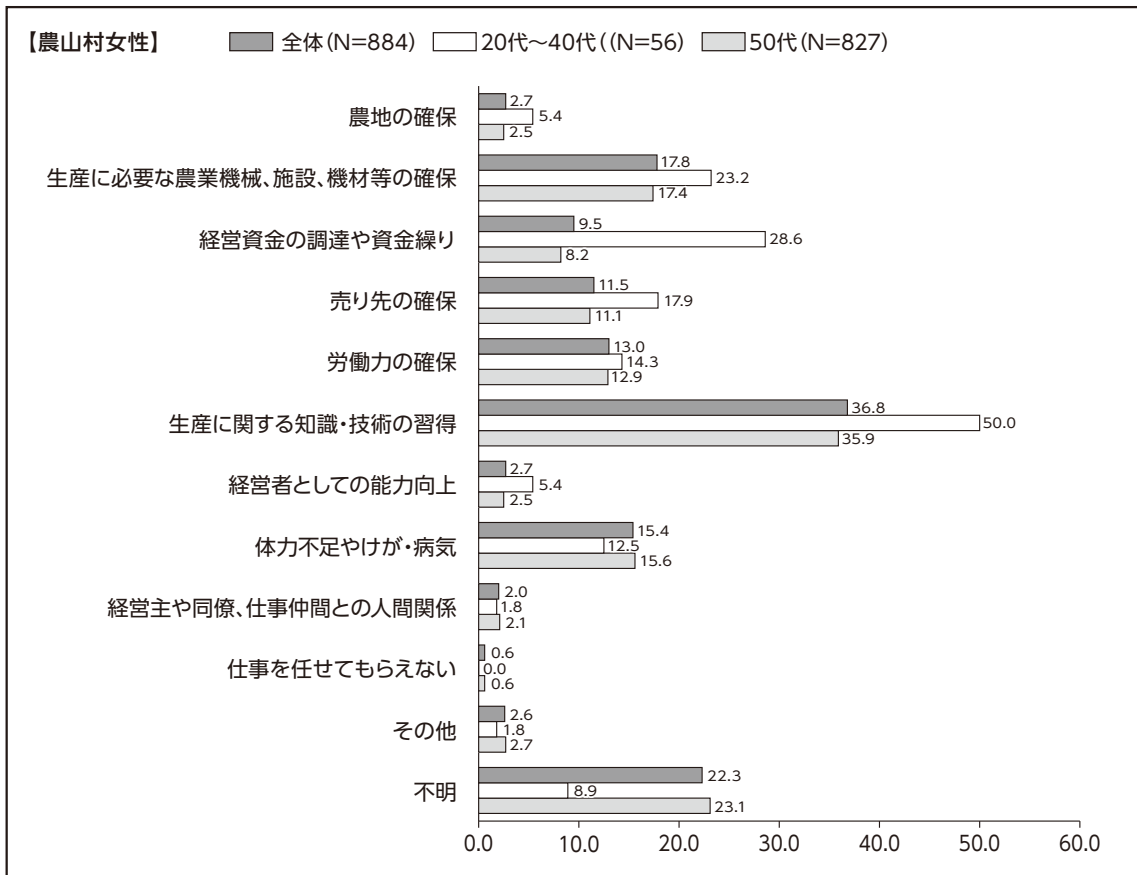


(6) 一人前の生産者となるまでには「家族」が頼り

7 女性の農業・漁業に関する技術の習得法 (%) (複数回答 いくつでも) [本文第 2-1-(6)]



① 一人前の生産者となるまでに最も苦労したこと、大変だったこと (%) (複数回答 2つ以内)
 [本文第 2-1-(6)]

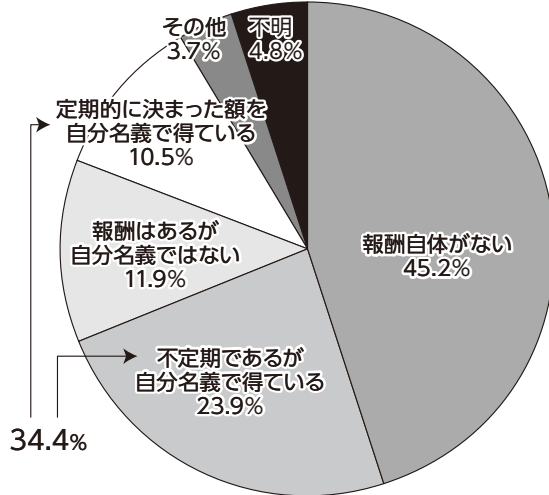


2 農林水産業を担う女性の働く環境

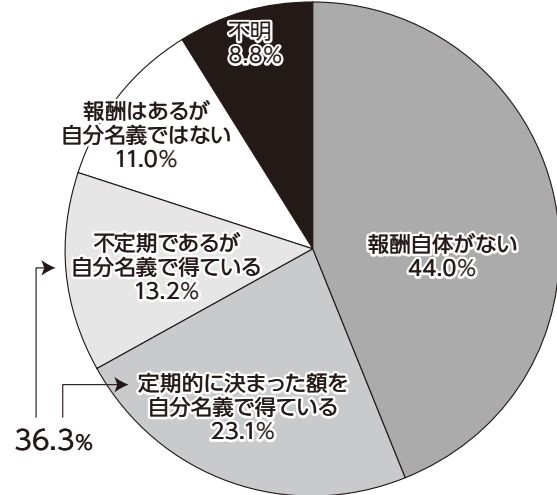
(1) 自分名義の労働報酬を確保している女性は約3割

ア 農山漁村女性の労働報酬(%) [本文第2-2-(1)]

【農山村女性】



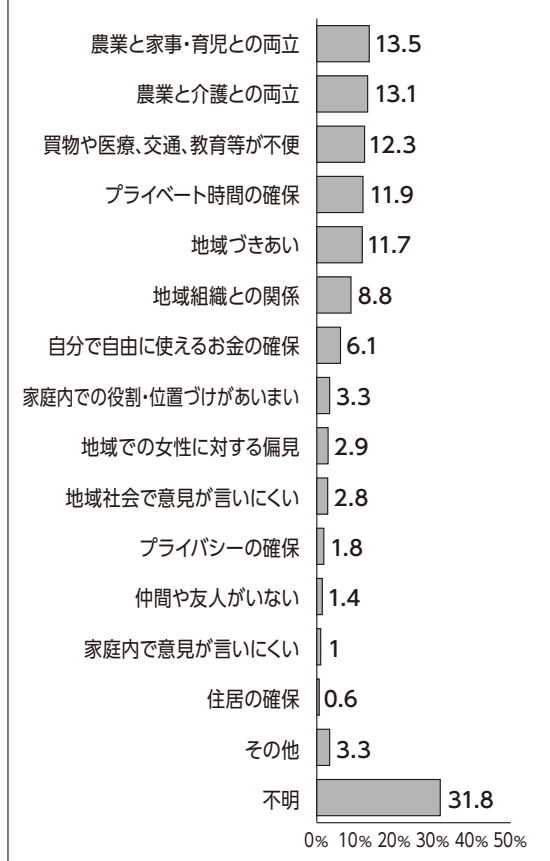
【漁村女性】



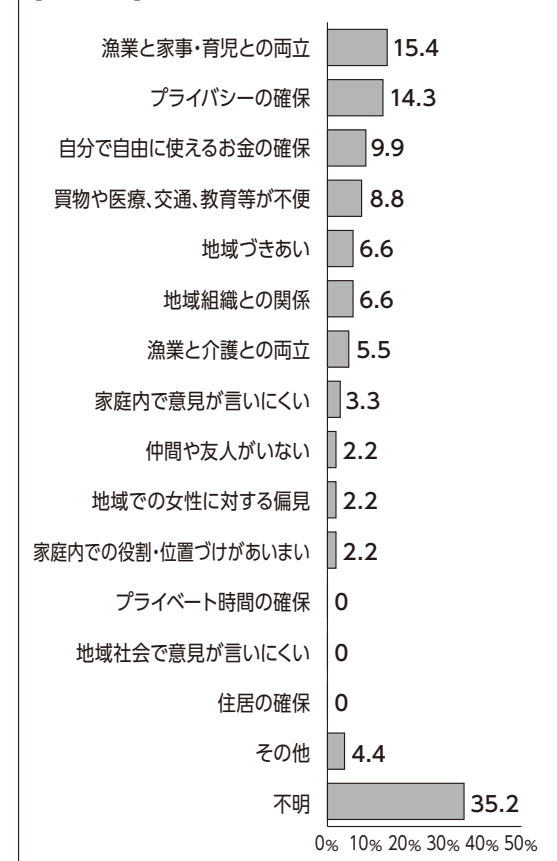
(2) 女性たちが求めるのは、生産と生活の調和のとれた働きやすい環境

ア 女性の農業・漁業に従事する上で直面した生活上の問題(%) (複数回答 2つまで) [本文第2-2-(2)]

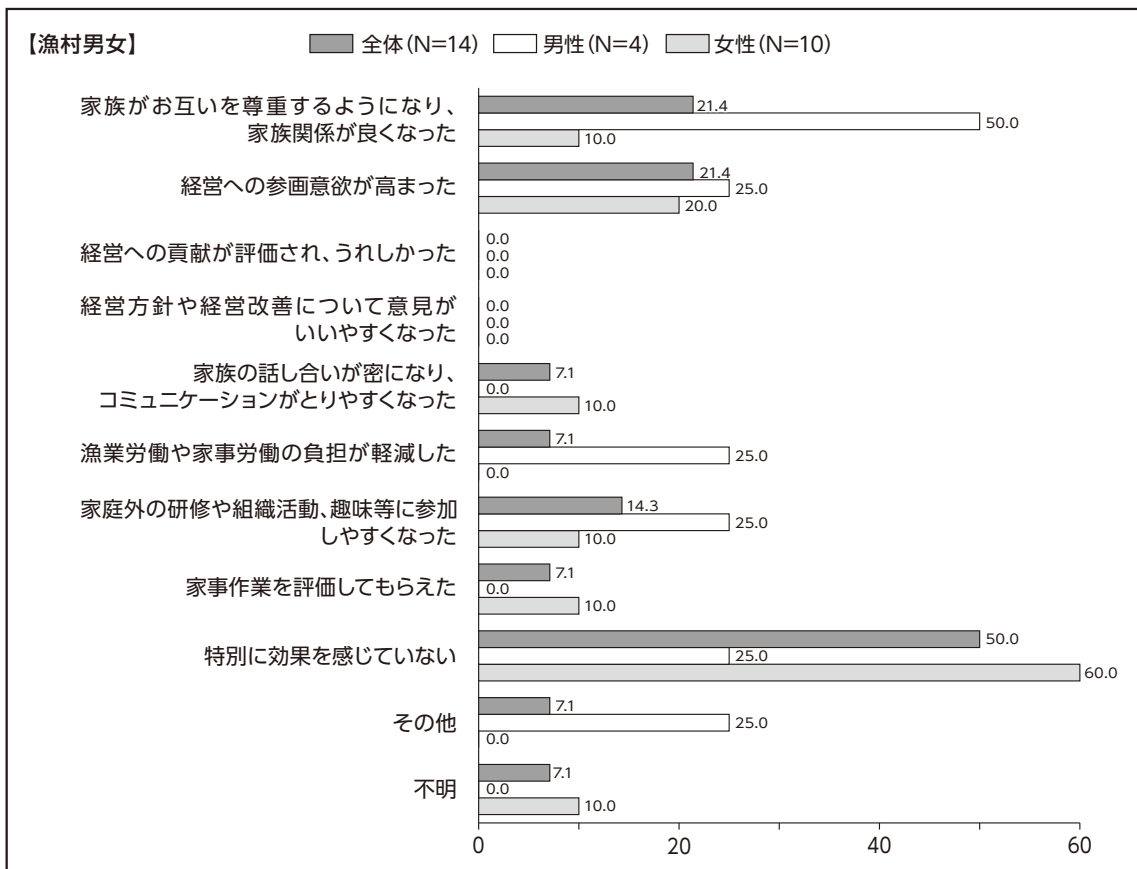
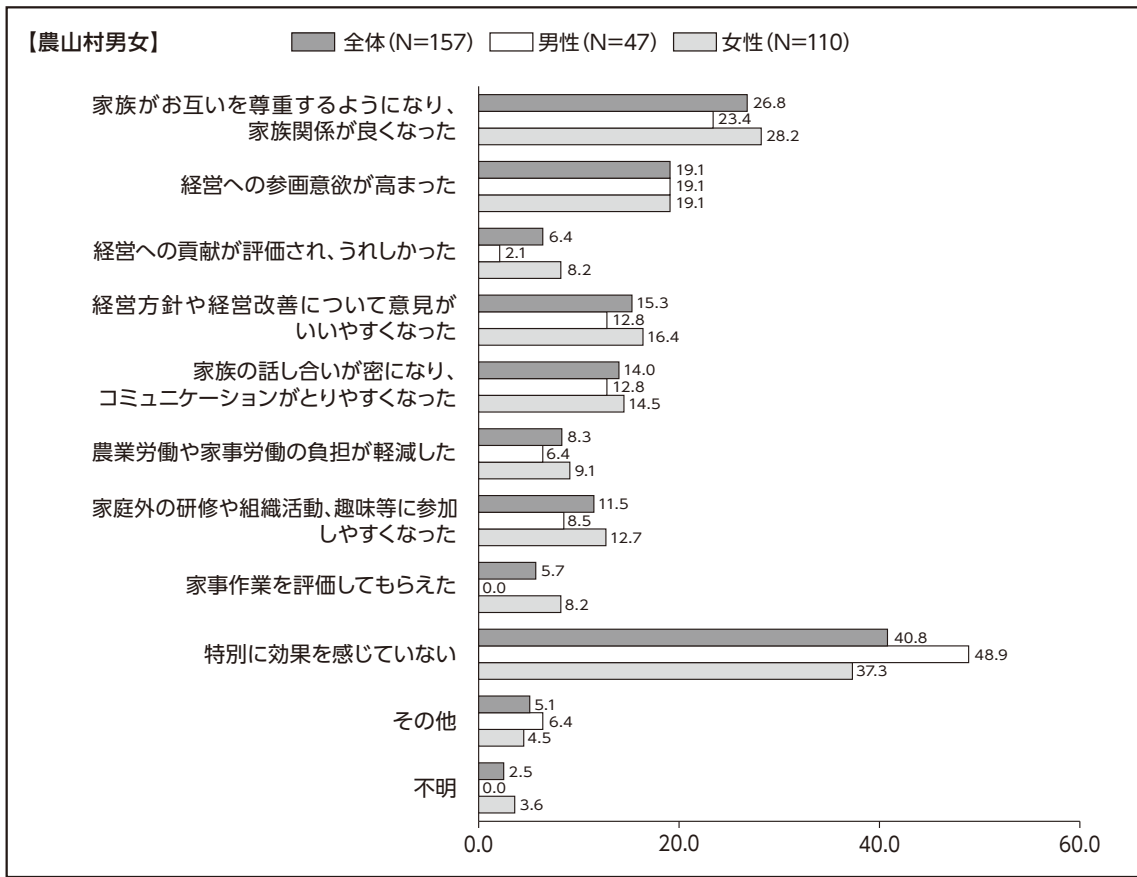
【農山村女性】



【漁村女性】



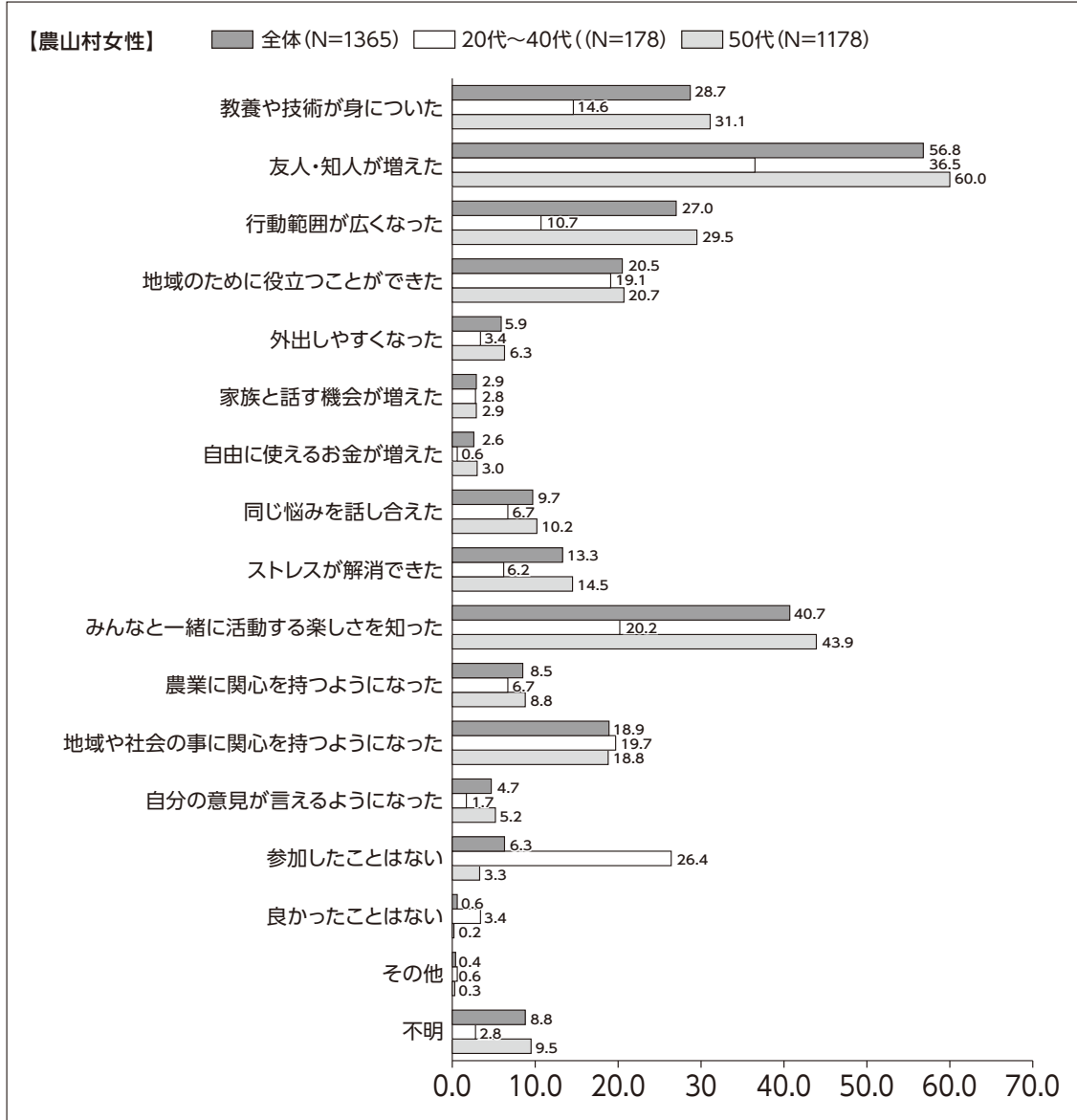
① 家族経営協定の効果に対する協定締結者の回答割合(%) (複数回答 いくつでも) [本文第 2-2-(2)]

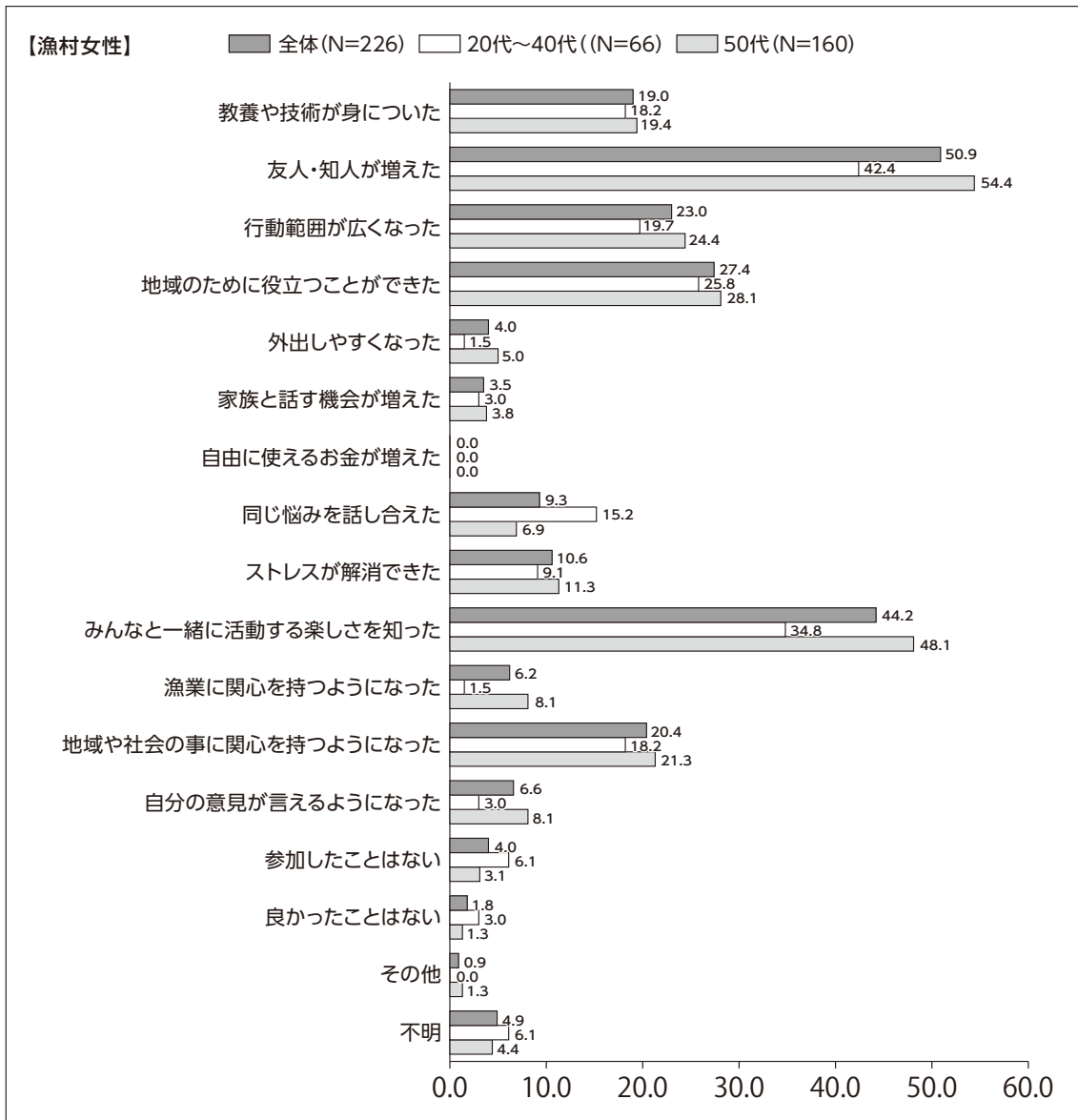


3 女性をとりまく暮らしと地域生活

(1) 地域の組織やグループ活動で仲間づくりと能力発揮

⑦ 地域の組織やグループ活動に参加して良かったこと (%) (複数回答 3つ以内) [本文第 2-3-(2)]

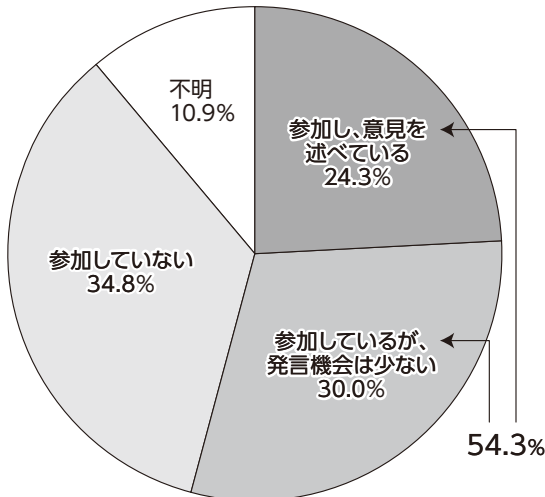




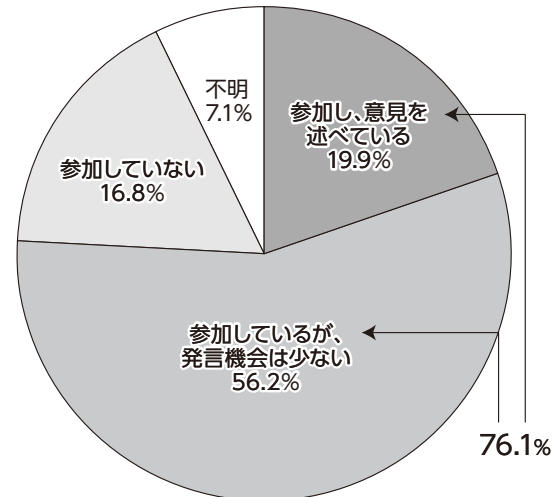
(2) 女性の約半数が、集落の方針決定や生産関係の協議の場に参加

⑦ 集落における活動方針決定の話し合いに参加している人の割合(%) [本文第 2-3-(3)]

【農山村女性】

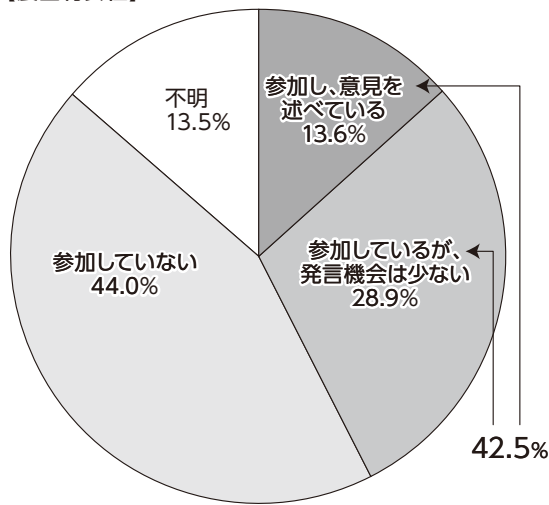


【漁村女性】

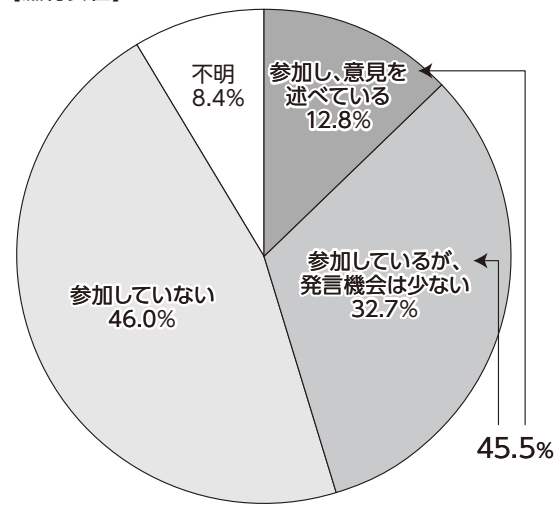


① 生産関係の協議や説明会等に参加している人の割合 (%) [本文第 2-3-(3)]

【農山村女性】



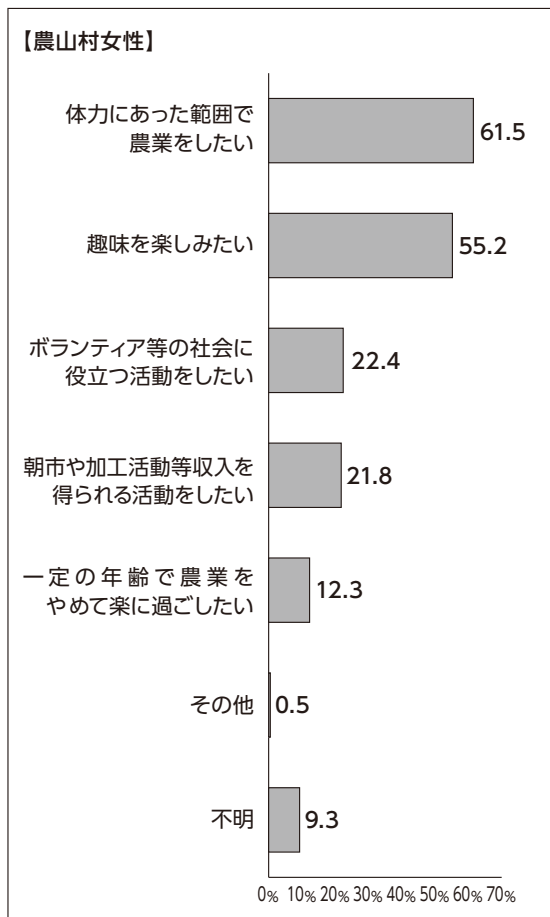
【漁村女性】



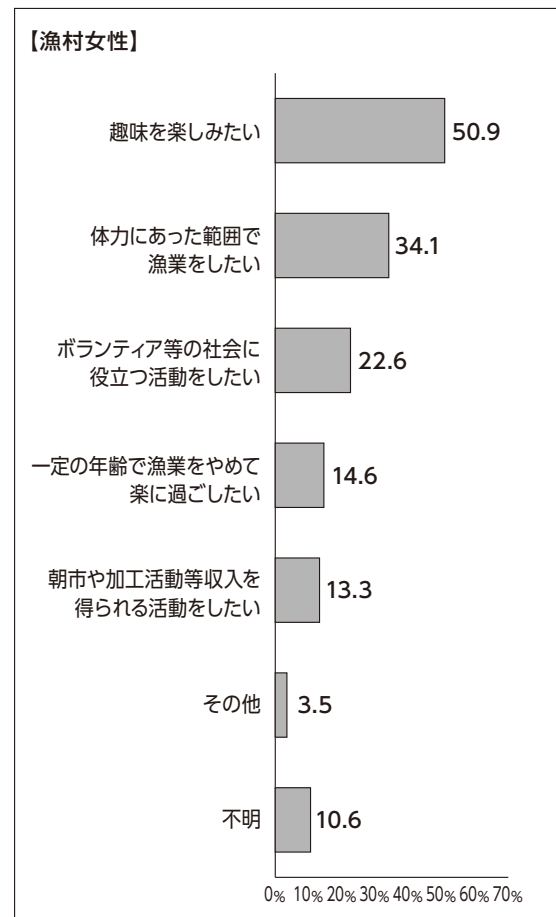
(3) 高齢になっても多様な活動に意欲的

⑦ 高齢期の暮らしについての考え方 (%) (複数回答 3つ以内) [本文第 2-3-(4)]

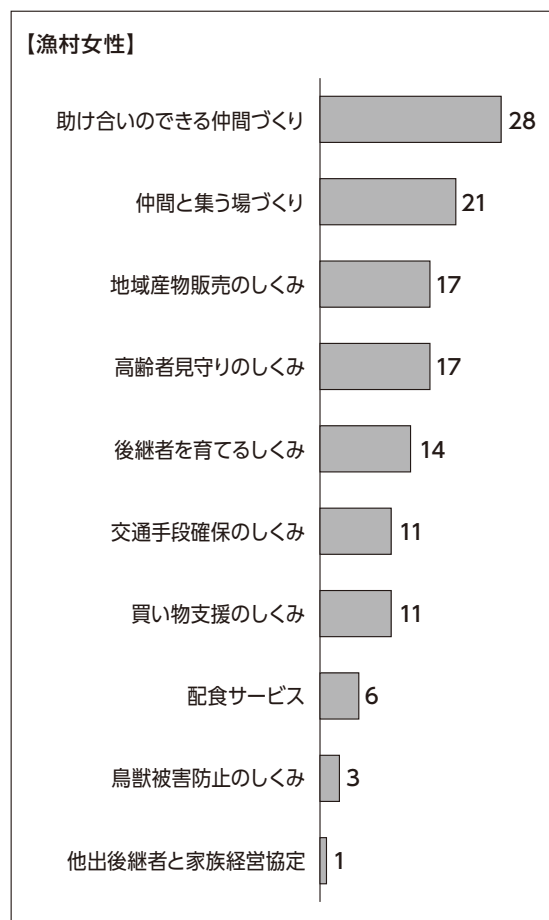
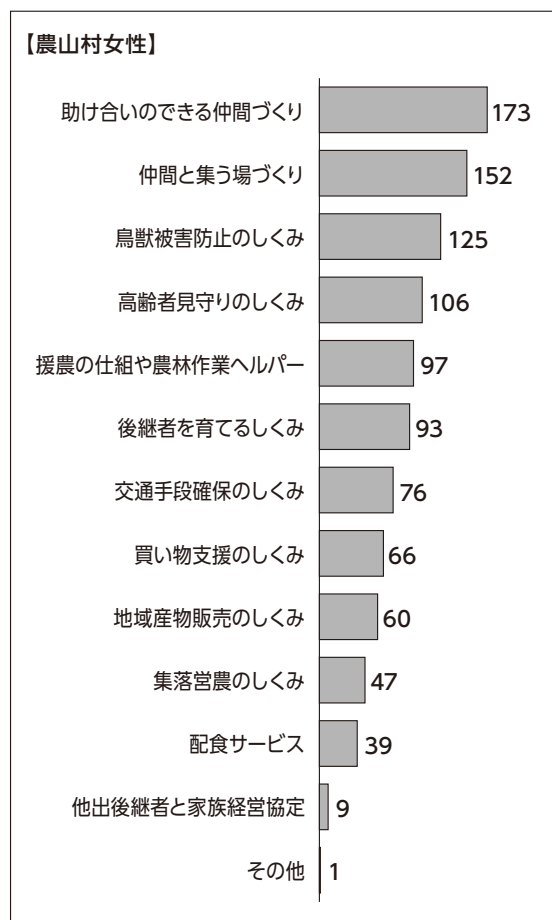
【農山村女性】



【漁村女性】



① 今後必要と思う支え合いのしくみ (件数) (複数回答) [本文第 2-3-(4)]

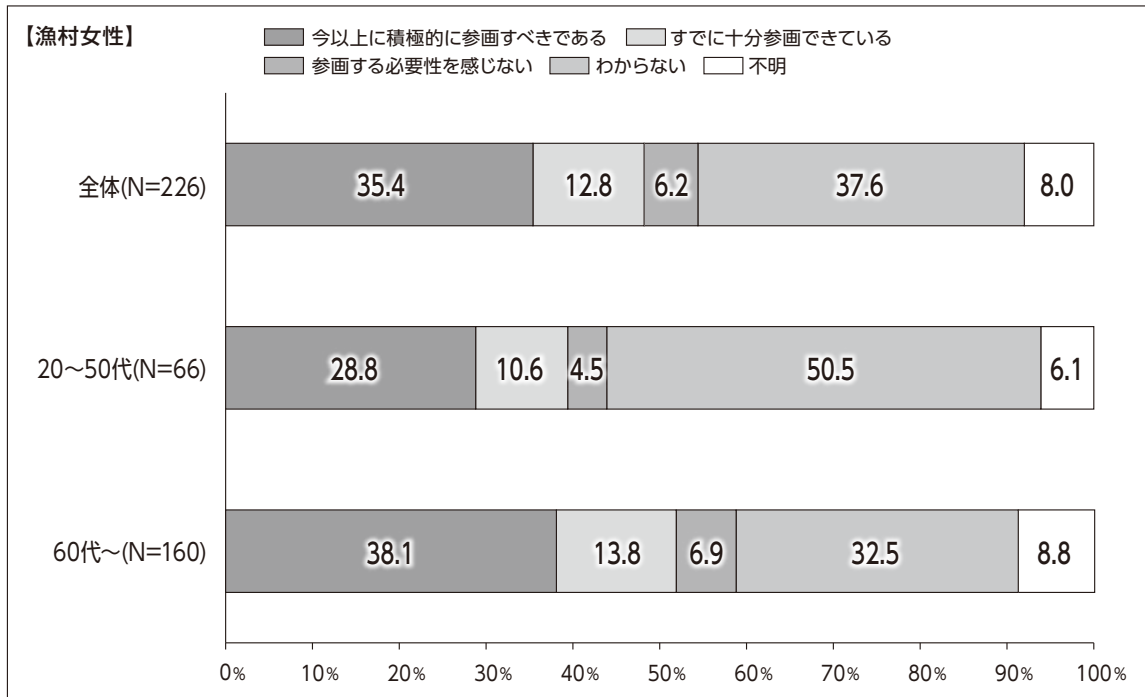
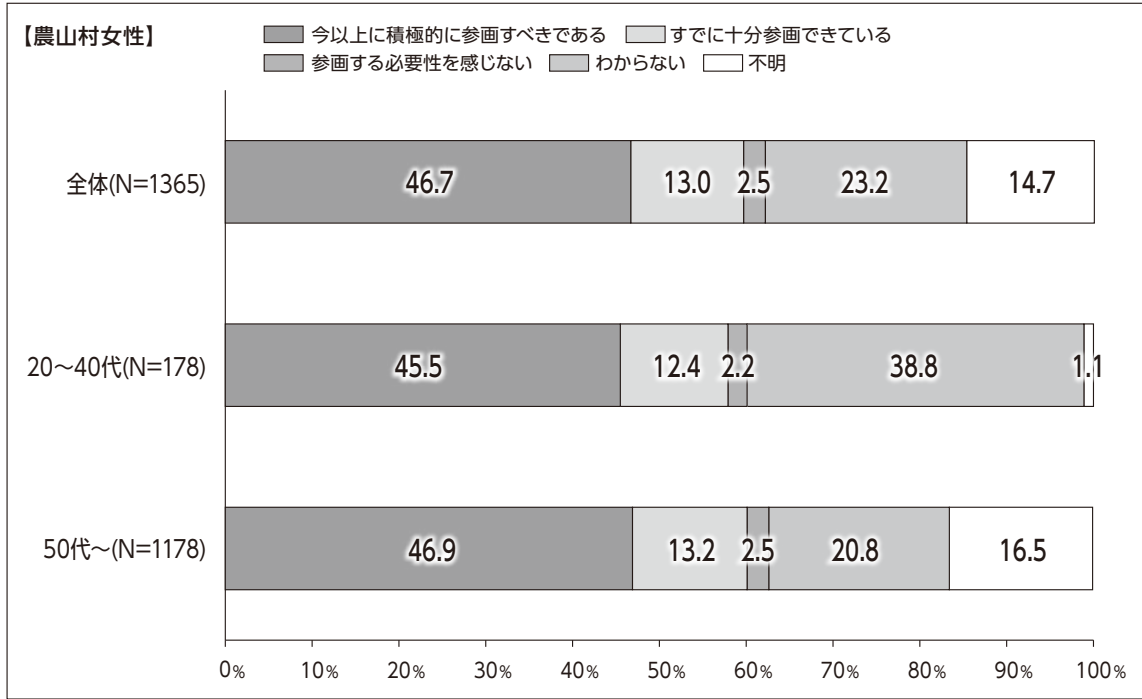


[資料] 県農林水産政策課「支え合いのしくみづくり」に向けた農山漁村女性の意向調査 (H24.5～6 実施)

4 女性の方針決定の場への参画と環境整備

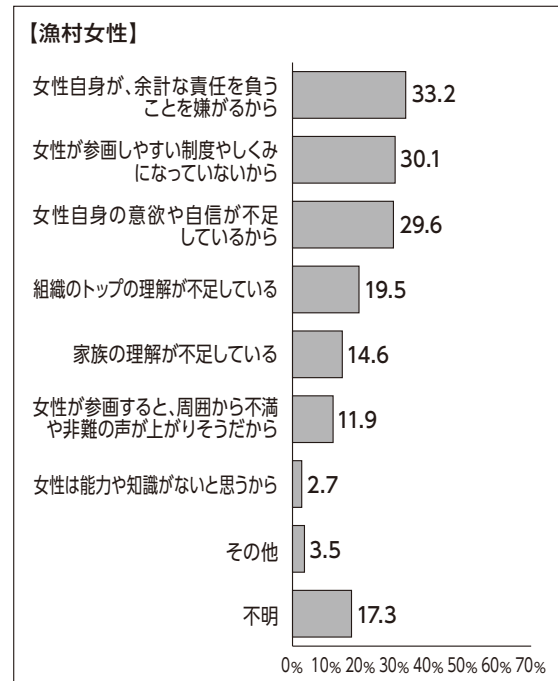
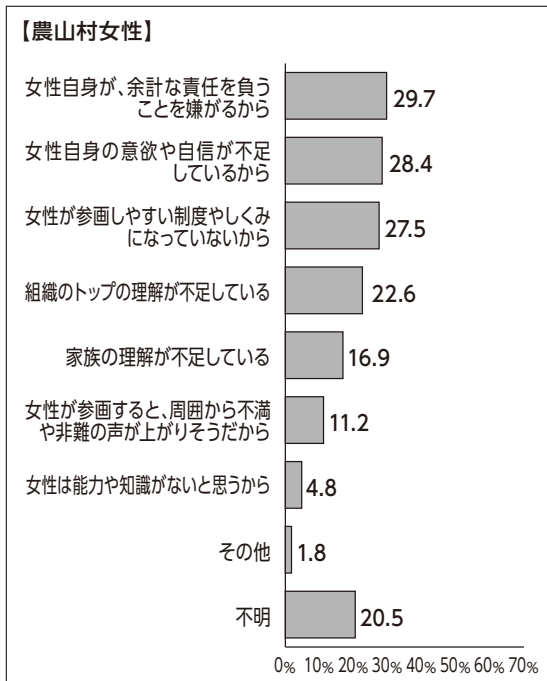
(1) 女性の4割前後は「今以上に積極的に参画すべきである」との意識

ア 方針決定の場への女性が参画することについて思うこと (%) [本文第2-4-(1)]

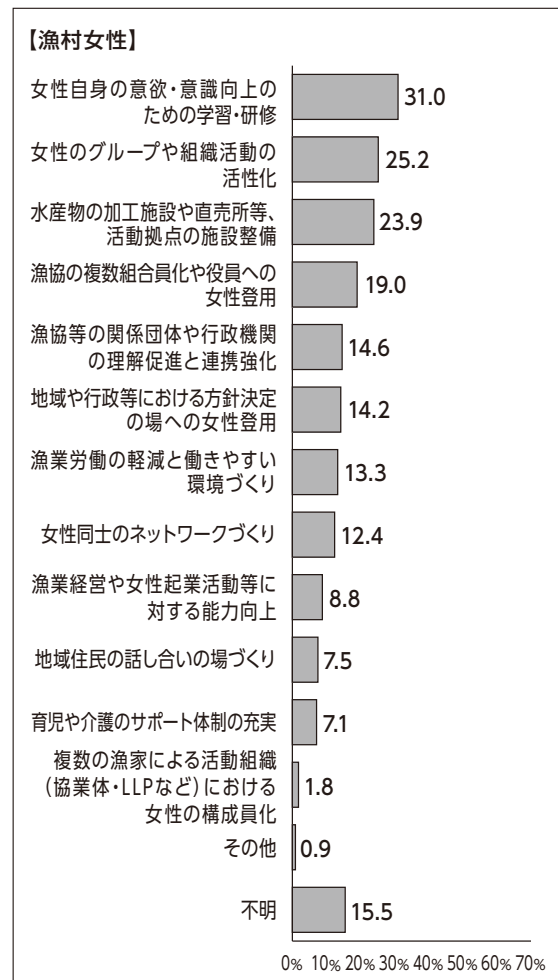
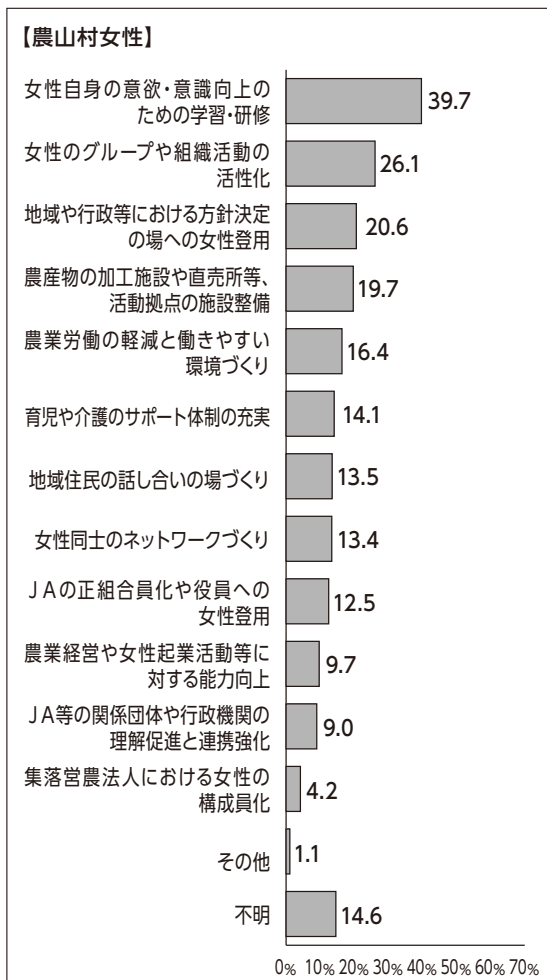


(2) 女性自身の意識改革や能力向上と外部環境の改善

㉗ 女性の参画を阻害する要因 (%) (複数回答 いくつでも) [本文第 2-4-(2)]



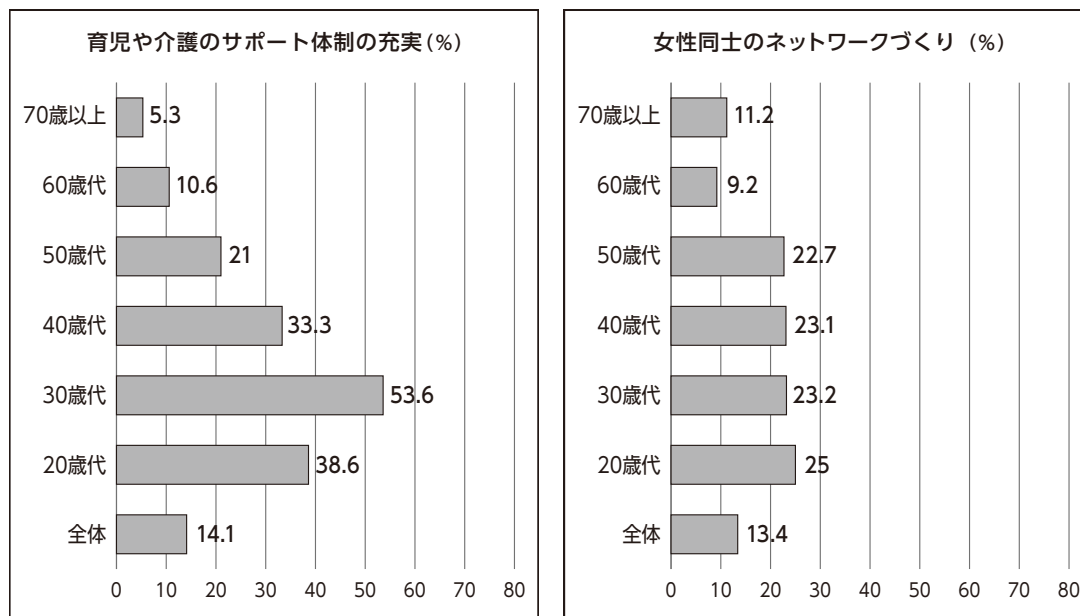
㉘ 今後、農山漁村女性が活躍するために必要なこと (%) (複数回答 3つ以内) [本文第 2-4-(2)]



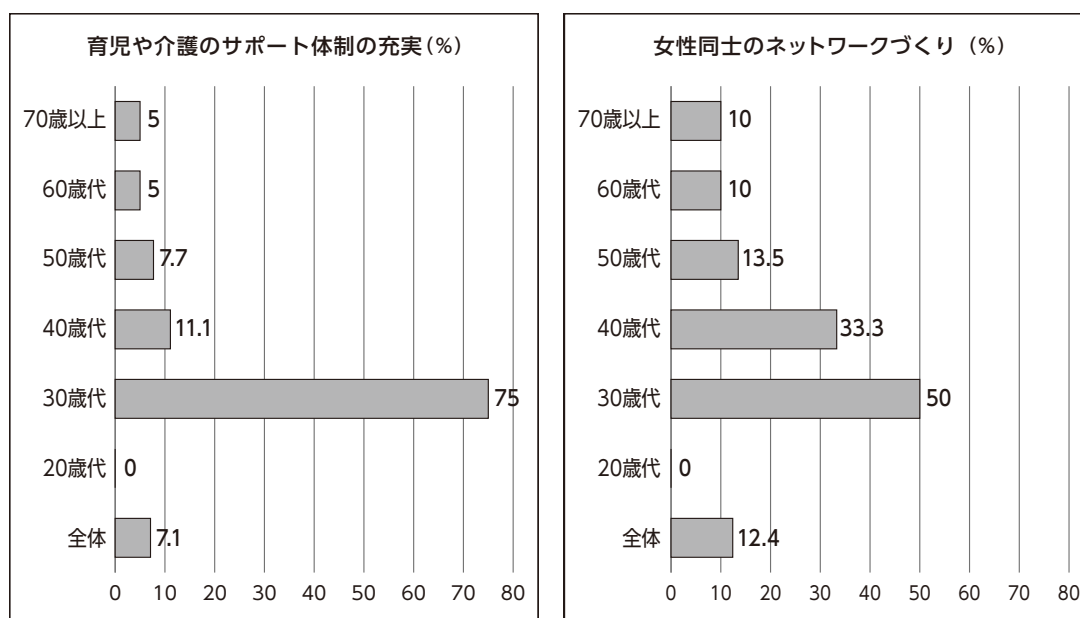
(3) 若い世代が求めるのは、「育児や介護のサポート体制の充実」や「女性同士のネットワークづくり」

⑦ 「育児や介護のサポート体制の充実」や「女性同士のネットワークづくり」の回答について
 年代別比較 (%) (複数回答 いくつでも) [本文第 2-4-(3)]

【農山村女性】



【漁村女性】





山口県農林水産部 農山漁村・女性対策推進室

山口県農山漁村女性連携会議

- 山口県JA女性組織協議会
- 山口県漁業協同組合女性部
- 山口県生活改善実行グループ連絡協議会
- 山口県農家生活改善士会
- 山口県漁村生活改善士会
- 山口県林業研究グループ連絡協議会女性部会
- やまぐち女性畜産連合会
- 山口県酪農青年女性会議
- やまぐち女性農業委員の会
- やまぐち農山漁村女性起業ネットワーク